平成 23 年度
国分寺市埋蔵文化財調査年報

2013 年 3 月

国分寺市教育委員会

序

平成23年度の国庫補助事業による市内発掘調査の成果を報告いたします。

平成23年は東日本大震災が起こり，人と人とのつながりや地域の力が改めて問われた年でもありました。個人住宅はみなさまの生活の礎となるものであり，国や都から補助金をいただき継続的に発掘調査をしているものです。震災の影響により大規模開発が少ない年でしたが，調査の中には少ない面積ながら貴重な成果を挙げた国分寺（尼寺）にかかわる調査や，旧石器時代の調査があります。これらの成果や出土遺物が，広く学校教育や社会教育に活用されることを期待いたします。

最後になりましたが，この調査や報告にあたって，多大な御理解と御協力を賜りました事業者をはじめ関係者のみなさまに対し，心より御礼申し上げます。

平成25年3月31日

国分寺市教育委員会

教育長　松井　敏夫

例　　言

1．本書は，東京都国分寺市において市教育委員会が平成23年度国庫補助事業として実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。調査対象遺跡は，当該年度に申請があった，個人住宅建設に伴う本発掘調査（以下，個人宅造）と，集合住宅建設等に伴う確認調査（以下，確認調査）が必要となった8遺跡12地点，および周知の埋蔵文化財包蔵地以外で実施した試掘調査1地点である。

2．調査費（平成23年度）および出土品等整理・報告書作成費（平成24年度）は「国宝重要文化財等保存整備費補助金」を得て実施した。費用の負担割合は，国1／2・都1／4・市1／4である。

3．発掘調査は国分寺市教育委員会が調査主体となり，国分寺市遺跡調査会（調査団長　坂詰秀一）に委託して調査を行った。調査担当は，国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係長依田亮一，同係上敷領久，小野本敦（平成23年度末退職），中道誠，寺前めぐみの5名で，中元幸二，野中太久磨，増井有真の協力を得た。

4．発掘調査および遺物・資料整理作業，報告書作成業務は同課職員の他，下記の国分寺市遺跡調査会，国分寺市シルバー人材センターが従事した。（五十音順）

青山達夫・石井佳男・井口正利・伊藤直美・大塚教子・大羽正子・小野祐子・桂弘美・倉田陽子・
小池和彦・佐々木徳明・佐々木義身・佐藤緋佐子・佐藤令・島田智博・相馬しのぶ・高橋より子・
平塚恵介・藤崎努・本村けい子・山口啓子

5．本書の執筆は，寺前（第1章・第2章第1節（1）～（4））・依田（第3章）・上敷領（第1章第1節（5））・が担当し，中道・中元・野中・増井がこれを補佐した。また，全体の編集は寺前が担当した。

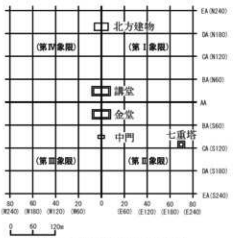
6．本書の挿図・表等の作成は，マイクロソフト社「ワード」・「エクセル」，アドビ社「イラストレーター」・「フォトショップ」・「インデザイン」の各ソフトを用いた。

7．発掘調査および整理作業，報告書作成の過程で，下記の方々からご教示やご協力を賜りました。記して感謝いたします。（五十音順・敬称略）

東京都教育庁地域教育支援部管理課・東京都建設局北多摩北部建設事務所・東京都埋蔵文化財センター
株式会社ミッド・マップ社
梅山伸二・小此木ヒサエ・上村雄三・佐々木義身・田中康敬（国分寺市ふるさと文化財愛護ボランティア）
黒尾和久・中山真治

凡　　例

1．国分寺市では，№10・19遺跡である武蔵国分寺跡僧尼寺の広大な範囲を統一して調査するため，局地座標系を用いている。座標原点は，僧寺の伽藍中軸線を基準に，金堂中心の北26.276ｍの中軸線上の点（コンクリート埋設）である。僧寺中軸線は，それぞれ真北から7°　07′　01″，磁北から0°　37′　01″西偏する。この座標原点を中心に，象限をⅠ～Ⅳに大別し，中心点からの距離をＮ・Ｓ・Ｅ・Ｗで表す。さらに，本文中および図面のグリッド表示の数字は，南と西に接する基準線に与えた記号の組み合わせにより呼称する。東西基準線はアルファベット２文字で表す。１文字目は原点をＡとし，60ｍごとにＢ・Ｃ・Ｄ…とふり，２文字目はその内を３ｍごとに20区に分けＡ～Ｔとふった。南北基準線は数字で表し，原点を０とし，以下東西ともに３ｍごとに１・２・３…とふった。なお，遺跡記号はＭＫにⅠ～Ⅳの各象限を続けたものに調査次数を付して表示している。



武蔵国分寺跡の調査基準線

2．上記以外の市内遺跡の座標は世界測地系の第９系を用いる。ただし，その基準点は平成23年３月11日の東北地方太平洋沖地震の影響を受けて変動しているが，従来の測量成果を使用している。

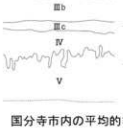
3．国分寺市域で用いる層位区分は，表土（Ⅰ層）下の黒褐色土を，より黒色味が強い上層（Ⅱ層）と褐色味が強い下層（Ⅲａ層）に細分している。今回報告する調査区は武蔵野段丘面と立川段丘面とに存在するが，堆積土は下記のとおりほぼ共通した層序を示す。

Ⅰ層　表土・近現代盛土および，耕作土。層厚30～50㎝。

Ⅱ層　黒褐色土。粒子が粗い。しまりはやや弱い。粘性は弱い。古代～中世の遺物を包含し，古代の遺構堆積土に似る。層厚約10～15㎝だが，市内ではすでに削平されていることが多い。

Ⅲａ層　暗褐色土。粒子はやや粗い。粘性はやや弱い。層厚約10～15㎝。遺存状況のよいところは本層上面で，古代の遺構が確認できる。

Ⅲｂ層　暗褐色土。Ⅲａ層より明度が高く，褐色味が強くなる。軟質で粘性はやや弱いが，Ⅲｃ層に近づくに連れて粘性が強くなる。縄文時代中期の遺物を包含する。層厚約30～40㎝。



国分寺市内の平均的な層序

Ⅲｃ層　茶褐色土・暗黄褐色土。縄文時代早・前期の遺物を包含する。ローム層への漸移層で，赤色スコリアを多量に含む。層厚約10～15㎝。

Ⅳ層　黄褐色土。ソフトローム。Ⅴ層との境は回凸が激しい。層厚約15～25㎝。

Ⅴ層　黄褐色土。ハードローム。

4．調査における写真記録は，原則として２種類の35㎜フィルム（カラーポジ・モノクロネガ）カメラとデジタルカメラを併用し撮影した。必要に

応じて中判フィルム（モノクロネガ）カメラも使用して記録した。№10・19遺跡以外の測量における基準点は国分寺市公共基準点を使用した。

5．図面については，原則として全体図1/100，遺構平面図1/20，断面図1/20のスケールで記録している。

6．調査地位置図・遺構図面は図面上が座標北である。縮尺は適宜スケールバーで示した。調査地位置図は，株式会社ミッドマップ社より提供を受けた地形図に加筆を行った。第2章は，縮尺を1/2,500に統一し，第3章は個別に表記した。また，土層断面図および柱状図の縮尺は1/40に統一した。

7．遺跡名については，№10・19の以外の調査については，Kに遺跡番号を続けたものに次数を付して表示している。

8．遺構は遺跡ごとにほぼ発見順に連続番号を付し，下記の遺構記号を冠して表示する。縄文時代の遺構は遺構番号末尾にJを付して区別し，そのうちPは遺構記号の後ろにJを付して歴史時代の遺構と区別する。また，小穴は調査地ごとに個別に№を振り分けている。

SB：掘立柱建物　SI：竪穴建物　SD：溝　SK：土坑　P：小穴
ST：ブロック　SR：礫群

9．遺物は各調査において種別毎に連続番号を付し，下記の遺物記号を冠して表示する。

歴史時代

土器類	PH：土師器	PK：須恵器	PN：灰釉陶器	PQ：白磁
瓦	KA：鐙瓦	KB：宇瓦	KC：男瓦	KD：女瓦
石製品	GL：砥石			

縄文時代

土器類	JB：早期前半	JE：中期前半	JF：中期後半	JG：後期
土製品	DA：ミニチュア土器	DE：土製円板		
石器類	AG：打製石斧	AH：磨製石斧	AL：磨石	AN：スタンプ形石器
旧石器時代	FA：ナイフ形石器	FJ：石核	FL：剥片	

10．遺物の縮尺は次のとおりに統一し，適宜スケールバーで示した。また，写真図版についても，おおむね下記のスケールに統一している。

土器類　1/3　瓦　1/4　縄文時代石器　1/3　旧石器時代石器　1/2

11．遺物の記述については一覧表とし，原則として図面番号順に列記してある。遺物観察表における法量のうち，完存しているものは括弧なしで全長数値を表し，（　）は残存数数値，((　))は復元数値を表す。「—」は計測できないものを表す。

本　文　目　次

序
例　言
凡　例
本文目次
挿図目次・写真目次・表目次

第１章　埋蔵文化財行政のあらまし ……9

第２章　平成 23 年度に実施した発掘調査 ……18
第１節　本発掘調査（個人宅造）……18
（１）　武蔵国分寺跡第 673 次 ……18
（２）　武蔵国分寺跡（尼寺）第 675 次 ……23
（３）　恋ヶ窪遺跡第 88 次 ……32
（４）　恋ヶ窪遺跡第 89 次 ……33
（５）　花沢東遺跡第 13 次 ……50

第２節　確認調査 ……61
（１）　武蔵国分寺跡第 670 次 ……61
（２）　武蔵国分寺跡第 671 次 ……62
（３）　武蔵国分寺跡第 674 次 ……64
（４）　恋ヶ窪遺跡第 90 次 ……65
（５）　花沢西遺跡第 22 次 ……66
（６）　殿ヶ谷戸北遺跡第３次 ……68
（７）　殿ヶ谷戸遺跡第 13 次 ……72

第３節　試掘調査 ……74
（１）　東恋ヶ窪６－23－２地点（推定東山道武蔵路跡）……74

第３章　まとめ ……79

挿図・写真目次

第１図　国分寺市の地形模式図
第２図　国分寺崖線と湧水
第３図　調査風景（インターン実習）
第４図　普及活動風景（拓本教室）
第５図　発掘調査面積の推移
第６図　平成23年度調査地位置図
第７図　ＭＫⅢ－673調査地位置図
第８図　ＭＫⅢ－673調査区配置図（１／500）
第９図　ＭＫⅢ－673調査区平面図（１／100）
第10図　ＭＫⅢ－673調査区土層柱状図
第11図　遺構断面図（１／40）
第12図　調査区全景東半（北から）
第13図　SK3430南壁（北から）
第14図　SK3431・3432完掘状況（南から）
第15図　調査風景（測量調査）
第16図　出土遺物実測図（土器１／３・瓦１／４）
第17図　出土遺物写真
第18図　ＭＫⅢ－675調査地位置図
第19図　ＭＫⅢ－675調査区配置図（１／800）
第20図　ＭＫⅢ－675調査区平面図（１／80）
第21図　ＭＫⅢ－675調査区壁断面図（１／40）
第22図　土層柱状図
第23図　遺構断面図（１／20）
第24図　周辺調査状況図（１／200）
第25図　Ａトレンチ東部SD44検出状況（北西から）
第26図　Ａトレンチ東部SD44完掘状況（北西から）
第27図　Ａトレンチ西部SD44完掘状況（北東から）
第28図　Ａトレンチ西部SD44西壁断面（南東から）
第29図　Ａトレンチ東部SD44東壁断面（南西から）
第30図　SB142基壇土検出状況（南から）
第31図　SB142基壇土検出状況（北から）
第32図　SB142東壁版築土（南西から）
第33図　SB142西壁断面（東から）
第34図　Ｂトレンチ全景（北東から）
第35図　調査風景（Ａトレンチ西部掘削）
第36図　出土遺物実測図（土器１／３・瓦１／４）
第37図　出土遺物写真
第38図　Ｋ２－88調査地位置図
第39図　Ｋ２－88調査地全体図（１／200）
第40図　調査区全景（東から）
第41図　調査区土層断面（南から）
第42図　Ｋ２－89調査地位置図
第43図　Ｋ２－89調査区配置図（１／300）
第44図　調査区平面図および周辺調査状況（１／200）
第45図　SK204J遺構断面図（１／40）
第46図　調査区土層柱状図
第47図　出土遺物実測図１（１／３）
第48図　出土遺物実測図２（１／３）
第49図　出土遺物実測図３（１／３）
第50図　調査区全景（東から）
第51図　調査区北壁断面（南から）
第52図　SK204J完掘状況（南から）
第53図　SK204J遺構断面（北から）
第54図　出土遺物写真１
第55図　出土遺物写真２
第56図　出土遺物写真３
第57図　出土遺物写真４
第58図　Ｋ54－13調査地位置図
第59図　Ｋ54－13調査区平面図（１／200）
第60図　遺物出土状況図（１／40，１／20）
第61図　Ａトレンチ全景（南から）
第62図　Ｂトレンチ全景（西から）
第63図　Ｃトレンチ全景（南から）
第64図　調査前風景Ａ・Ｂ・Ｃトレンチ（東から）
第65図　調査前風景Ｃ・Ｄトレンチ（北から）
第66図　Ａトレンチ石器出土状況（南東から）
第67図　Ａトレンチ石器出土状況（東から）
第68図　Ａトレンチ拡張部全景（東から）
第69図　Ａトレンチ拡張部礫群出土状況（東から）
第70図　Ａトレンチ拡張部礫群出土状況（北から）
第71図　出土遺物実測図１（１／２）
第72図　出土遺物実測図２（１／２）
第73図　出土遺物写真１
第74図　出土遺物写真２
第75図　出土遺物写真３
第76図　ＭＫⅠ－670調査地位置図
第77図　ＭＫⅠ－670調査区全体図（１／400）
第78図　調査区全景（東から）
第79図　ＭＫⅢ－671調査地位置図
第80図　ＭＫⅢ－671調査地全体図（１／200）
第81図　調査地全景（東から）
第82図　調査区土層断面（南から）
第83図　調査区北部（西から）
第84図　調査区西部（西から）
第85図　調査区南部（北から）

第 86 図　MKⅡ－674 調査地位置図
第 87 図　MKⅡ－674 調査地全体図（1／200）
第 88 図　調査区全景（東から）
第 89 図　調査区南部（北から）
第 90 図　K 2 － 90 調査地位置図
第 91 図　K 2 － 90 調査地全体図（1／200）
第 92 図　Aトレンチ完掘状況（南西から）
第 93 図　Bトレンチ完掘状況（北東から）
第 94 図　K 8 － 22 調査地位置図
第 95 図　K 8 － 22 調査地全体図（1／200）
第 96 図　K 8 － 22 調査区土層柱状図
第 97 図　SK29」北壁土層断面図（1／40）
第 98 図　調査地全景（北から）
第 99 図　№2 トレンチ完掘状況（北西から）
第 100 図　出土遺物実測図（1／3）
第 101 図　出土遺物写真
第 102 図　K 20 － 3 調査地位置図
第 103 図　K 20 － 3 調査区土層柱状図
第 104 図　調査区全景（西から）
第 105 図　遺物出土状況 1 （西から）
第 106 図　遺物出土状況 2 （西から）
第 107 図　K 20 － 3 調査地全体図（1／400）
第 108 図　出土遺物実測図（1／3）
第 109 図　出土遺物写真
第 110 図　K 21 － 13 調査地位置図
第 111 図　K 21 － 13 調査地全体図（1／200）
第 112 図　調査区南壁断面（北から）
第 113 図　調査区南壁断面図（1／40）
第 114 図　調査地から近景を臨む（南から）
第 115 図　調査区近景（北から）
第 116 図　東恋ヶ窪 6 － 23 － 2 地点調査地位置図
第 117 図　東恋ヶ窪 6 － 23 － 2 地点調査地全体図（1／300）
第 118 図　Cトレンチ西部平面図（1／40）
第 119 図　SD 5 北壁断面図（1／20）
第 120 図　SD 5 検出状況（南から）
第 121 図　SD 5 完掘状況（南から）
第 122 図　試掘調査地点と都市計画道路 3 ・ 2 ・ 8 号線の計画路線調査地点位置図（1/10,000）
第 123 図　Aトレンチ全景（西から）
第 124 図　Bトレンチ全景（西から）
第 125 図　Cトレンチ全景（東から）
第 126 図　調査前状況（西から）
第 127 図　SD 5　A断面北壁（南から）
第 128 図　SD 5　B断面北壁（南から）
第 129 図　SD 5　C断面北壁（南から）

表　目　次

第 1 表　届出・通知および調査件数
第 2 表　届出・通知の指示内容と割合
第 3 表　発掘調査面積の推移
第 4 表　平成 23 年度届出・通知一覧
第 5 表　MKⅢ－673 遺物観察表（土器）
第 6 表　MKⅢ－673 遺物観察表（瓦）
第 7 表　MKⅢ－675 遺物観察表（土器）
第 8 表　MKⅢ－675 遺物観察表（瓦）
第 9 表　K 2 － 89 遺物観察表（土器）
第 10 表　K 2 － 89 遺物観察表（石器）
第 11 表　K 54 － 13 遺物観察表（石器）
第 12 表　K 8 － 22 遺物観察表（土器）
第 13 表　K 20 － 3 遺物観察表（土器）
第 14 表　K 20 － 3 遺物観察表（石器）

第１章　埋蔵文化財行政のあらまし

国分寺市は，通称「ハケ」と呼ばれる国分寺崖線を境として，地形的に北と南に分けられています。国分寺崖線は，古多摩川が武蔵野台地を 10 万年以上の歳月をかけて削りとって形成された河岸段丘の連なりを指し，東西の長さは約 30k mにわたります。北と南の標高差（崖高）は 10 ～ 20 mをはかります。崖面には樹林や湧水などの豊かな自然環境が見られ，この崖線上を武蔵野段丘，崖下を立川段丘と呼んでいます。立川段丘は約４～５万年前に形成されましたが，本多谷・殿ヶ谷戸谷・さんや谷・恋ヶ窪谷のようにいくつもの溺れ谷が残っているため，崖線下から湧く水はこれらの谷を通って集まり野川となります。

こうした起伏に富む豊かな自然環境のもと，野川を中心に市内には人類が日本列島に住み始めた旧石器時代以来の生活痕跡が多く残されています。そして，奈良時代には，市名の由来となった武蔵国分寺が国分寺崖線を背にして建立されました。

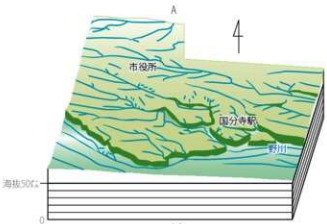
先人がこの地域に残した遺構や遺物（埋蔵文化財）を保存・活用し，現在を生きる私たちの文化的向上に役立てていくことは大切なことです。「文化財保護法」（以下「法」という）では，国や地方公共団体に対し，遺跡である「埋蔵文化財を包蔵する土地」（以下「包蔵地」という）を的確に把握し，周知の徹底に努めるように求めています（法第 95 条第１項）※1。

国分寺市では，現在 58 か所の包蔵地が確認されています。そのうち，武蔵国分寺跡の中枢部周辺と，東山道武蔵路跡の一部については，国の史跡に指定されています。

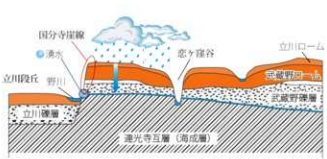
包蔵地の範囲内で土木工事を行う場合には，埋蔵文化財保護の観点から，法に基づいて，着手しようとする日の 60 日前までに届出（法第 93 条第１項）※2，もしくは通知（法第 94 条第１項）※3を行う必要があります。

届出（通知）は国分寺市教育委員会を通して東京都教育委員会に進達され，工事が埋蔵文化財に与える影響を考慮して必要な措置が都から届出者に対して指示されます。

市内では，地表からおよそ 40 ～ 100 ㎝下に遺構が眠っており，工事がこれより深い場合は埋蔵文化財の保存に影響が及ぶ可能性があります。その影響が軽微な場合には，市職員の立会のもとに工事を行います（立会調査）。埋蔵文化財が壊される



第１図　国分寺市の地形模式図



第２図　国分寺崖線と湧水

可能性があると判断される場合，遺跡の状況を探る確認調査を行い，その結果，事業者と協議の上でやむを得ず開発により遺跡を壊すことになった場合には，事前に記録保存調査を行います（本調査・事前調査）。その費用については原因者に負担をお願いしています。

国指定史跡（武蔵国分寺跡　附東山道武蔵路跡）内で工事などによって現状を変更する場合については，文化庁長官の許可を受けなければなりません（法第 125 条）※4。また，同工事によって地下を掘削する場合は，さらに埋蔵文化財発掘の届出もしくは通知の提出が必要となります。

※文化財保護法抜粋（昭和 25 年５月 30 日法律第 214 号・最終改正 平成 23 年５月２日法律第 37 号）

※１　（埋蔵文化財包蔵地の周知）第 95 条第１項

国及び地方公共団体は、周知の埋蔵文化財包蔵地について、資料の整備その他その周知の徹底を図るために必要な措置の実施に努めなければならない。

※２　（土木工事等のための発掘に関する届出及び指示）第 93 条第１項

土木工事その他埋蔵文化財の調査以外の目的で、貝づか、古墳その他の埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地（以下「周知の埋蔵文化財包蔵地」という。）を発掘しようとする場合には、前条第１項の規定を準用する。この場合において、同項中「30 日前」とあるのは、「60 日前」と読み替えるものとする。

（調査のための発掘に関する届出、指示及び命令）第 92 条第１項

土地に埋蔵されている文化財（以下「埋蔵文化財」という。）について、その調査のため土地を発掘しようとする者は、文部科学省の定める事項を記載した書面をもつて、発掘に着手しようとする日の 30 日前までに文化庁長官に届け出なければならない。

※３　（国の機関等が行う発掘に関する特例）　法第 94 条第１項

国の機関（中略）が、前条第１項に規定する目的で周知の埋蔵文化財包蔵地を発掘しようとする場合においては、同条の規定を適用しないものとし、当該国の機関等は、当該発掘に係る事業計画の策定に当たつて、あらかじめ、文化庁長官にその旨を通知しなければならない。

※４　（現状変更等の制限及び原状回復の命令）第 125 条

史跡名勝天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。ただし、現状変更については維持の措置（中略）、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りではない。

第１表　届出・通知および調査件数

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
93 条	163	141	152	151	146
94 条	22	27	20	38	42
125 条	12	5	5	4	2
計	**197**	**173**	**177**	**193**	**190**
調査	18	19	15	22	20

※平成 23 年度届出・通知のうち 93 条１件は事業中止，94 条１件は事業延期

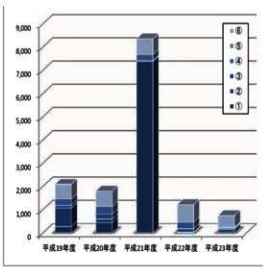
第２表　届出・通知の指示内容と割合

指示内容内訳	件数	割合
事前調査	5	3%
確認調査	6	3%
立会調査	175	94%
慎重工事	0	0%

埋蔵文化財の届出（通知）は，平成 18・19 年度の約 190 件を境に，ここ３年ほどはおおむね年間約 170 件で推移してきました。しかし，平成 23 年３月 11 日の東日本大震災を受け，年度下半期にライフラインの点検整備や住宅等の開発が例年より多く計画されたことにより，平成 23 年度は 186 件の提出がありました。なお，史跡の現状変更許可申請書（法第 125 条）は，いずれも国分寺市教育委員会が史跡内の事前遺構確認調査や整備工事として申請したものです。

第３表　発掘調査面積の推移

			平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
土木工事等に伴う調査	事業者負担による調査	①民間企業	271	445	7374	28	0
		②公共機関	792	153	0	0	0
	補助金による調査	③事前調査	121	208	46	146	146
		④確認調査	276	328	254	290	50
		⑤試掘調査	0	0	0	0	40
学術的調査		⑥遺構確認調査	629	659	676	749	505



第５図　発掘調査面積の推移

平成 21 年度を除き，平成 15 年度より調査面積の減少傾向は続いています。同時に開発工事による発掘調査件数も減少しており，特に平成 23 年度は 11 件と近年で最も少なく，民間の大型開発に伴う発掘調査はありませんでした。これは震災の影響による上半期の調査件数が大きく関係しているとみられます。本書では③・④にあたる国庫補助金支出の調査成果をまとめています。

なお，国分寺市では現在，法第 125 条の申請に基づき，史跡武蔵国分寺跡（僧寺）の規模や配置，構造を追究し，歴史公園整備のために事前遺構確認調査や工事を進めています。

また，こうした文化財を保護し，後世に伝えていくために発掘調査以外にも，文化財の調査成果の公開，普及活動など様々な事業を行っています。発掘調査によって出土した土器や瓦は，武蔵国分寺跡資料館や文化財資料展示室（市立第四中学校内），国分寺駅に隣接する駅ビルＬのショーウインドウ（８階）などで展示を行っています。また，市で刊行した報告書や普及書は，武蔵国分寺跡資料館や市立図書館，市役所オープナー等で閲覧することができます。

第３図　調査風景（インターン実習）

第４図　普及活動風景（拓本教室）

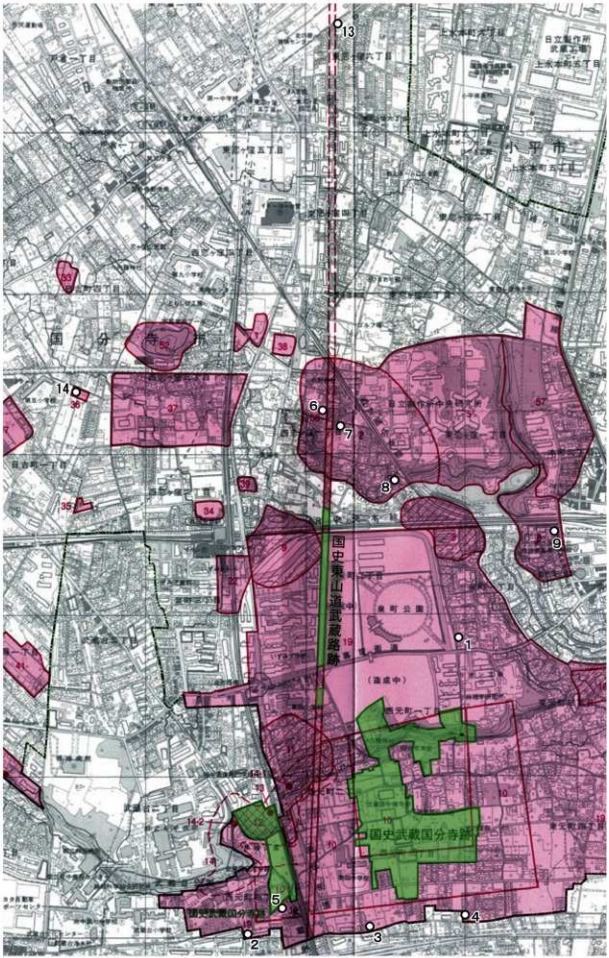
第４表　平成 23 年度届出・通知一覧

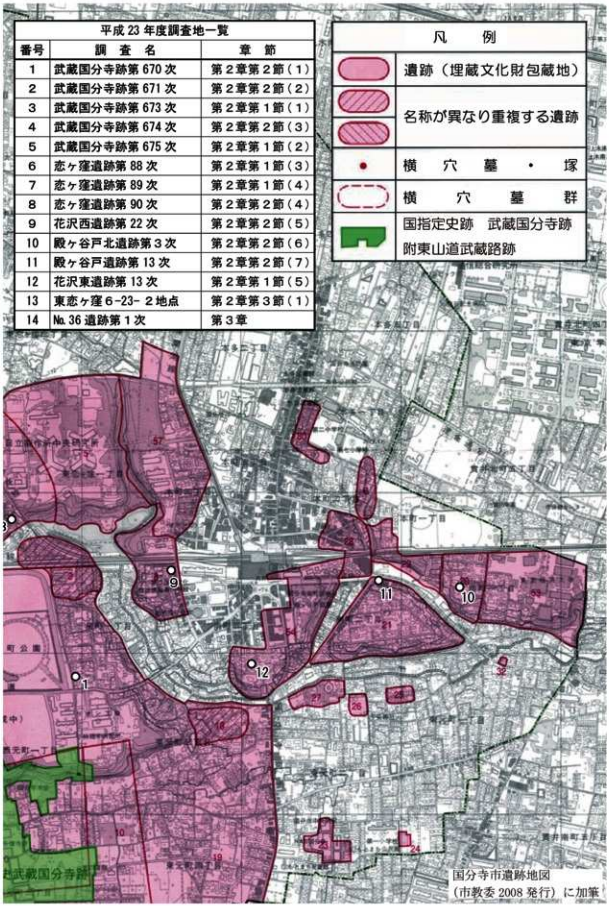
№.	年月日	条	申　請　地	申　請　工　事　内　容	指示内容	調査次数
1	H23. 4. 6	93 条	西恋ケ窪 1-25-40	個人住宅	事前調査	K 2-88
2	H23. 4. 8	93 条	南町 2-284-66	集合住宅・店舗・事務所	確認調査	K 21-13
3	H23. 4. 11	94 条	西恋ケ窪 1-28-15	ガス・水道・電気等（下水道）	立会調査	
4	H23. 4. 20	94 条	東元町 3-16	ガス・水道・電気等（下水道）	立会調査	
5	H23. 4. 21	93 条	南町 2-10-15	ガス・水道・電気等（支線新設）	立会調査	
6	H23. 4. 25	93 条	東元町 3-16	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
7	H23. 4. 26	93 条	西元町 3-28-15	集合住宅	立会調査	
8	H23. 4. 22	93 条	西元町 3-28-15	個人住宅	立会調査	
9	H23. 4. 20	93 条	西恋ヶ窪 1-17-16	個人住宅	立会調査	
10	H23. 4. 20	93 条	東元町 3-16	ガス・水道・電気等（下水道）	立会調査	
11	H23. 4. 15	93 条	西恋ヶ窪 1-49-7	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
12	H23. 4. 21	94 条	南町 2-5	ガス・水道・電気等（消火栓設置）	立会調査	
13	H23. 4. 15	93 条	西元町 3-2160-14	分譲住宅	立会調査	
14	H23. 5. 11	93 条	泉町 1-12	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
15	H23. 5. 9	93 条	南町 3-27-5	集合住宅	立会調査	
16	H23. 5. 12	94 条	西元町 2-11-43 先	電話（支柱撤去）	立会調査	
17	H23. 5. 13	93 条	東元町 3-1-1	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
18	H23. 5. 17	93 条	南町 3-27-5	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
19	H23. 5. 20	94 条	西元町 2-15-36	ガス・水道・電気等（下水道）	立会調査	
20	H23. 5. 24	93 条	光町 1-1-57	個人住宅	立会調査	
21	H23. 5. 18	93 条	泉町 1-8-12	個人住宅	立会調査	
22	H23. 5. 19	93 条	西恋ヶ窪 1-13	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
23	H23. 5. 19	93 条	光町 1-1-12	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
24	H23. 5. 31	93 条	西元町 3-1-2	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
25	H23. 6. 2	93 条	西元町 3-28-2	ガス・水道・電気等（電柱）	立会調査	
26	H23. 6. 2	93 条	東元町 3-20-41	ガス・水道・電気等（電柱）	立会調査	
27	H23. 6. 14	93 条	西元町 3-3-31	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
28	H23. 5. 20	93 条	西元町 2-15-36 付近	ガス・水道・電気等	立会調査	
29	H23. 6. 16	94 条	西元町 3-10-7	ガス・水道・電気等（下水道）	立会調査	
30	H23. 6. 17	93 条	西元町 2-7	ガス・水道・電気等（水道）	立会調査	
31	H23. 6. 8	93 条	西元町 4-6-9	集合住宅	確認調査	MK Ⅲ -671
32	H23. 6. 20	94 条	西恋ヶ窪 1-25-40	ガス・水道・電気等（下水道）	立会調査	
33	H23. 6. 30	93 条	南町 3-26-24	ガス・水道・電気等（水道）	立会調査	
34	H23. 6. 30	94 条	光町 1-1-57	ガス・水道・電気等（下水道）	立会調査	
35	H23. 7. 7	93 条	東恋ヶ窪 1-250	店舗	立会調査	
36	H23. 7. 12	93 条	南町 3-26-25	電話	立会調査	
37	H23. 7. 12	93 条	南町 2-370-13・14・15, 372-6・7・8・9	集合住宅・店舗・事務所・ガス水道電気等	立会調査	
38	H23. 7. 14	94 条	西元町 3-2160-7	ガス・水道・電気等（下水道）	立会調査	
39	H23. 7. 27	94 条	日吉町 2-9	電話	立会調査	
40	H23. 8. 1	93 条	東元町 3-1400-6	集合住宅	立会調査	
41	H23. 8. 1	93 条	西恋ヶ窪 1-13-12	ガス・水道・電気等	立会調査	
42	H23. 7. 13	93 条	南町 2-9-13	ガス・水道・電気等	立会調査	
43	H23. 8. 3	93 条	泉町 1-14-3	ガス・水道・電気等	立会調査	
44	H23. 7. 20	93 条	東元町 3-5-9	ガス・水道・電気等	立会調査	
45	H23. 8. 4	93 条	西恋ヶ窪 1-13-12	分譲住宅	立会調査	

46	H23.8.12	93条	西恋ヶ窪1-18-6	個人住宅	事前調査	K2-89
47	H23.8.11	94条	光町1-1-59	ガス・水道・電気等	立会調査	
48	H23.8.12	94条	西恋ヶ窪3-3-19他	ガス・水道・電気等	立会調査	
49	H23.8.12	93条	光町1-1-59	ガス・水道・電気等	立会調査	
50	H23.8.22	93条	東恋ヶ窪2-1・6	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
51	H23.8.22	93条	西元町4-9-5	個人住宅	立会調査	
52	H23.8.22	93条	光町1-5-2	学校建設	立会調査	
53	H23.8.22	94条	泉町1-9-17	ガス・水道・電気等	立会調査	
54	H23.8.30	93条	西恋ヶ窪1-12-24	分譲住宅	確認調査	K2-90
55	H23.9.1	94条	東恋ヶ窪2-1付近	道路	立会調査	
56	H23.9.1	93条	西恋ヶ窪1-13-12	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
57	H23.7.28	94条	西恋ヶ窪1-11-25	個人住宅	立会調査	
58	H23.9.2	94条	南町2-8-9	ガス・水道・電気等（下水道）	立会調査	
59	H23.9.5	93条	光町1-1	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
60	H23.9.6	93条	東元町2-7-4	個人住宅	立会調査	
61	H23.9.12	93条	東元町1-38-52	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
62	H23.9.15	93条	東元町4-13-9	ガス・水道・電気等（電気）	立会調査	
63	H23.9.22	93条	泉町1-8-12	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
64	H23.9.22	93条	泉町1-8-8	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
65	H23.9.26	93条	東元町3-16-6	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
66	H23.9.28	93条	南町2-8-9	ガス・水道・電気等（水道）	立会調査	
67	H23.10.4	93条	西元町4-2294-2	地盤改良	立会調査	
68	H23.10.4	93条	東元町3-5-9	ガス・水道・電気等（水道）	立会調査	
69	H23.10.4	93条	泉町1-10-8	個人住宅	立会調査	
70	H23.10.4	93条	東元町3-12-16	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
71	H23.10.5	94条	東元町3-5-9	ガス・水道・電気等（下水道）	立会調査	
72	H23.10.11	94条	泉町1-8-8	ガス・水道・電気等（水道）	立会調査	
73	H23.10.12	94条	西恋ヶ窪3-29-19	個人住宅	立会調査	
74	H23.10.18	94条	泉町1-18-8	ガス・水道・電気等（下水道）	立会調査	
75	H23.10.18	94条	南町3-26-4	ガス・水道・電気等（水道）	立会調査	
76	H23.10.18	93条	東元町3-14-4	分譲住宅	立会調査	
77	H23.10.18	93条	南町3-26	L形設置	立会調査	
78	H23.10.18	93条	西恋ヶ窪1-5-1外	宅地造成	立会調査	
79	H23.10.19	93条	南町3-26	ガス・水道・電気等（水道）	立会調査	
80	H23.10.19	93条	南町3-26	ガス・水道・電気等（水道）	立会調査	
81	H23.10.28	93条	東元町3-6-18	個人住宅	立会調査	
82	H23.10.28	93条	泉町1-18-19	分譲住宅	立会調査	
83	H23.10.28	94条	西恋ヶ窪2丁目他	ガス・水道・電気等（水道）	立会調査	
84	H23.10.28	94条	南町3-26	下水道工事	立会調査	
85	H23.10.28	94条	東元町2-17先	電柱支線撤去	立会調査	
86	H23.10.31	93条	西元町3-27-15	接地棒取付	立会調査	
87	H23.10.31	93条	西元町2-11-10	劣化柱立替	立会調査	
88	H23.10.31	93条	南町2-18-36	鋼管埋設	立会調査	
89	H23.11.1	93条	光町1-1-59	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
90	H23.11.1	93条	東元町3-5-9	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
91	H23.11.2	93条	西恋ヶ窪3-6-1	個人住宅	立会調査	
92	H23.11.7	93条	本町2-4-5	ガス・水道・電気等（劣化柱立替）	立会調査	

93	H23. 11. 7	93 条	西元町 3-8	ガス・水道・電気等（劣化柱立替）	立会調査	
94	H23. 11. 7	93 条	東元町 2-12-16	ガス・水道・電気等（本柱新設撤去，支線撤去）	立会調査	
95	H23. 11. 8	93 条	東元町 2-771-2 他	ガス・水道・電気等（水道管埋設）	立会調査	
96	H23. 11. 9	93 条	東恋ヶ窪 1-280	耐震補強工事のための調査	立会調査	
97	H23. 11. 18	93 条	西恋ヶ窪 1-25	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
98	H23. 11. 11	93 条	泉町 2-13	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
99	H23. 11. 18	93 条	泉町 1-19-5	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
100	H23. 11. 14	93 条	東元町 3-34-3	集合住宅	立会調査	
101	H23. 11. 15	94 条	泉町 1-8-2	雨水浸透ます設置	立会調査	
102	H23. 10. 25	94 条	東元町 4-10-14	公共汚水ます設置工事	立会調査	
103	H23. 11. 24	93 条	南町 3-28-8	集合住宅	立会調査	
104	H23. 11. 28	93 条	西元町 3-12-8	本柱建替	立会調査	
105	**H23. 11. 22**	**93 条**	**西元町 3-5**	**個人住宅**	**事前調査**	**MKⅢ-673**
106	H23. 11. 16	93 条	南町 3-28-8	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
107	H23. 12. 1	93 条	南町 3-2796-1	分譲住宅（2 棟）	立会調査	
108	H23. 12. 1	93 条	南町 3-2796-1	分譲住宅（1 棟）	立会調査	
109	H23. 12. 1	93 条	南町 3-2796-9	集合住宅	立会調査	
110	H23. 12. 5	93 条	泉町 2-13	ガス・水道・電気等（水道）	立会調査	
111	H23. 12. 6	94 条	西恋ヶ窪 1 丁目内	公共汚水ます設置工事	立会調査	
112	H23. 12. 6	94 条	西恋ヶ窪 1-2-41	公共汚水ます設置工事	立会調査	
113	H23. 12. 6	94 条	西恋ヶ窪 3 丁目地内	公共汚水ます設置工事	立会調査	
114	H23. 12. 6	94 条	日吉町 1-33-2	公共汚水ます設置工事	立会調査	
115	H23. 12. 2	93 条	東元町 1-38-48	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
116	H23. 12. 2	93 条	南町 3-26-24	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
117	H23. 12. 9	93 条	東元町 2-7	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
118	H23. 12. 9	93 条	南町 1-12	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
119	H23. 12. 9	93 条	西恋ヶ窪 1-5	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
120	**H23. 12. 9**	**93 条**	**西元町 3-1897-8・9・10**	**分譲住宅（1 号棟）**	**確認調査**	**MKⅡ-674**
121	H23. 12. 9	93 条	西元町 3-1897-8・10	分譲住宅（2 号棟）	立会調査	
122	H23. 12. 13	93 条	南町 3-26-24	公共汚水ます設置工事	立会調査	
123	H23. 12. 15	94 条	西元町 1-13-31	消防訓練棟建築	立会調査	
124	H23. 12. 19	93 条	泉町 3-2597-1	集合住宅建設	立会調査	
125	H23. 12. 21	93 条	本多 1-4-18	個人住宅	立会調査	
126	H23. 12. 7	93 条	南町 3-2796-19	分譲住宅Ａ棟	立会調査	
127	H23. 12. 7	93 条	南町 3-2796-20	分譲住宅Ｂ棟	立会調査	
128	H23. 12. 7	93 条	南町 3-2796-20	分譲住宅Ｃ棟	立会調査	
129	H23. 12. 7	93 条	南町 3-2796-20	分譲住宅Ｄ棟	立会調査	
130	H23. 12. 26	94 条	西元町 3-3-3	公共汚水ます設置工事	立会調査	
131	H24. 1. 5	93 条	西恋ヶ窪 1-5-1	本柱移設工事	立会調査	
132	H24. 1. 5	93 条	西元町 3-26	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
133	H24. 1. 10	93 条	西元町 3-3	給水管・公共汚水桝	立会調査	
134	H24. 1. 6	94 条	泉町 2-102-9	残存基礎調査	立会調査	
135	**H24. 1. 17**	**93 条**	**南町 1-309-1 の一部**	**宅地造成**	**確認調査**	**K 20-3**
136	**H24. 1. 17**	**93 条**	**南町 3-28-6**	**集合住宅建設**	**確認調査**	**K 8-22**
137	**H24. 1. 17**	**93 条**	**西元町 4-13804-11・13**	**個人住宅**	**事前調査**	**MKⅢ-675**
138	H24. 1. 17	93 条	西恋ヶ窪 1-11-25	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
139	H24. 1. 19	93 条	東元町 4-2-11	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	

140	H24.1.23	93 条	南町 2-9-6	給水管新設	立会調査	
141	H24.1.19	94 条	泉町 2-内	公園整備	立会調査	
142	H24.1.25	93 条	東元町 2-7-4	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
143	H24.1.26	93 条	西元町 3-15-16	分譲住宅	立会調査	
144	H24.1.26	93 条	泉町 1-18-19	水道管理設	立会調査	
145	**H24.1.20**	**93 条**	**南町 3-2681-14**	**個人住宅**	**事前調査**	**K 54-13**
146	H24.1.27	93 条	西恵ヶ窪 1-5-1 の一部	分譲住宅	立会調査	
147	H24.1.31	94 条	西元町 2-15-9	ガス・水道・電気等（電柱）	立会調査	
148	H24.2.2	93 条	本町 1-7-3	コン柱地際補強工事	立会調査	
149	H24.2.6	93 条	東元町 4-1713-5	個人住宅	立会調査	
150	H24.2.10	93 条	本町 4-21	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
151	H24.2.10	93 条	西恵ヶ窪 3-6-1	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
152	H24.2.10	93 条	東元町 3-6-18	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
153	H24.2.10	93 条	南町 2-9-6	個人住宅	立会調査	
154	H24.2.13	93 条	南町 2-9	個人住宅	立会調査	
155	H24.2.14	94 条	泉町 1-19-5	公共汚水ます設置工事	立会調査	
156	H24.2.14	94 条	東元町 3-16-10	公共汚水ます設置工事	立会調査	
157	H24.2.14	93 条	本町 4-15	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
158	H24.2.14	93 条	東元町 3-6-13	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
159	H24.2.14	93 条	東元町 3-12-26	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
160	H24.2.14	93 条	西元町 1-1	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
161	H24.2.14	93 条	東元町 3-11	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
162	H24.2.14	93 条	本町 1-3 他	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
163	H24.2.17	93 条	西元町 3-5	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
164	H24.2.17	93 条	西恵ヶ窪 1-26-3 他	会館	立会調査	
165	H24.2.20	93 条	泉町 1-18-14	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
166	H24.2.20	93 条	泉町 1-5-21	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
167	H24.2.20	93 条	泉町 3-2	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
168	H24.2.20	93 条	東元町 3-16-10	造成・給排水	立会調査	
169	H24.2.22	93 条	南町 3-26	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
170	H24.2.22	94 条	西恵ヶ窪 1-20-31	雨水浸透ます設置	立会調査	
171	H24.2.22	94 条	西恵ヶ窪 3-15-3	雨水浸透ます設置	立会調査	
172	H24.2.22	94 条	東元町 3-16-10	公共汚水ます設置工事	立会調査	
173	H24.2.24	93 条	南町 3-30	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
174	H24.2.24	93 条	南町 3-30	ガス・水道・電気等（水道）	立会調査	
175	H24.3.2	94 条	西恵ヶ窪 3-3-17	雨水浸透ます設置	立会調査	
176	H24.3.1	93 条	西元町 3-14-9	個人住宅	立会調査	
177	H24.2.24	93 条	東元町 4-1793-5	個人住宅	立会調査	
178	H24.3.7	93 条	西恵ヶ窪 3-29	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
179	H24.3.7	93 条	日吉町 1-43-65	個人住宅	立会調査	
180	H24.3.7	93 条	西元町 3-3-47	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
181	H24.3.2	93 条	西元町 3-8 先	電気（ケーブルテレビ）	立会調査	
182	H24.3.9	93 条	西元町 3-16	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
183	H24.3.16	93 条	南町 2-284-66	集合住宅	立会調査	
184	H24.3.16	93 条	本町 4-23-4	個人住宅	立会調査	
185	H24.3.16	93 条	西恵ヶ窪 3-9-10	個人住宅	立会調査	
186	H24.3.21	93 条	西元町 2-18-10	倉庫	立会調査	


国史東山道武蔵路跡
国史武蔵国分寺跡
国史武蔵国分寺跡
小平市
国分寺市
日立製作所武蔵工場
泉町公園
（造成中）
1
2
3
4
5
6
7
8
9
13
14
35
37
38
39
52
53
57
94



平成 23 年度調査地一覧

番号	調　査　名	章　節
1	武蔵国分寺跡第 670 次	第２章第２節（1）
2	武蔵国分寺跡第 671 次	第２章第２節（2）
3	武蔵国分寺跡第 673 次	第２章第１節（1）
4	武蔵国分寺跡第 674 次	第２章第２節（3）
5	武蔵国分寺跡第 675 次	第２章第１節（2）
6	恋ヶ窪遺跡第 88 次	第２章第１節（3）
7	恋ヶ窪遺跡第 89 次	第２章第１節（4）
8	恋ヶ窪遺跡第 90 次	第２章第２節（4）
9	花沢西遺跡第 22 次	第２章第２節（5）
10	殿ヶ谷戸北遺跡第３次	第２章第２節（6）
11	殿ヶ谷戸遺跡第 13 次	第２章第２節（7）
12	花沢東遺跡第 13 次	第２章第１節（5）
13	東恋ヶ窪６-23- ２地点	第２章第３節（1）
14	№.36 遺跡第１次	第３章

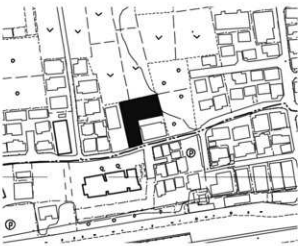
第６図　平成 23 年度調査地位置図

第２章　平成 23 年度に実施した発掘調査

第１節　本発掘調査（個人宅造）

（１）武蔵国分寺跡第 673 次

所在地	国分寺市西元町３－2186－２		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成 23 年 12 月２日～ 12 月８日		
調査面積	25.15 ㎡	遺物箱数	１箱
検出遺構	SK3430 ～ 3432，P-1 ～ 4		
主な遺物	土器・瓦・白磁		
調査員	小野本・依田		



第７図　ＭＫⅢ－ 673 調査地位置図

調査地は武蔵国分寺跡の中心から南西に約 380 ｍに位置し，奈良・平安時代の遺構が分布する武蔵国分寺跡（No.19）に該当する。南側の道路を挟んで府中市と隣接し，現況標高は約 65.5 ｍを測り，立川段丘面に立地する。

周辺の既往調査は，隣接地の調査例はないものの，調査地の西・北西・北東で多く調査されている。調査地の西約 50 ｍに位置する第 347 次調査地点では，竪穴建物とともに，掘立柱建物が確認されている（1990 年・未報告）。北東約 50 ｍの第 488 次調査においても，竪穴建物等が確認されている（1999 年・未報告）。

また，府中市万作の木公園（府中市栄町三丁目）では，武蔵国分僧寺中枢部方向と武蔵国分尼寺方向に分かれる参道口にあたる道路跡と門柱状遺構が検出されており（府中市教育委員会・府中市遺跡調査会 2009『武蔵国分寺跡調査報告６』），今次調査地の南西約 100 ｍには，参道口から尼寺方向へと続く道路状遺構が確認されている。市内においては，調査地の東約 80 ｍに位置する第 447 次調査地点で僧寺中枢部方向へと続く道路状遺構や竪穴建物が確認されている（1997 年・未報告）。

以上の状況から，当該地においても遺構の検出が予測されることから，地中鋼管杭の打ち込みによって遺構に影響が及ぶ可能性のある範囲を対象に，その一部について確認調査を行った。

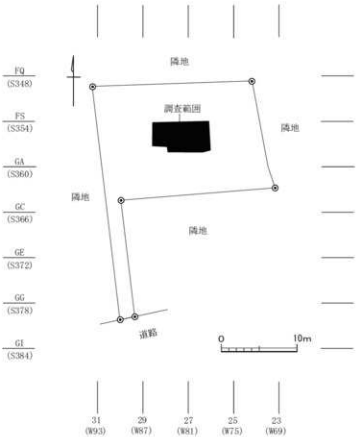
調査区内は，盛土部分を除き地表面から約 55c ｍの深さで地山Ⅲｂ層が遺存しており，その面で奈良・平安時代の遺構確認を行ったところ，土坑３基（SK3430 ～ 3432），小穴４基（P-1 ～ P-4）を検出した。

SK3432 は長辺 1.45 ｍ，短辺 0.9 ｍ，深さ 55c ｍで平面形は隅円方形を呈する。SK3431 も現存長で長辺 1.1 ｍ，短辺 1.3 ｍを測り，一部が調査区外にかかる。両者は重なって検出されたため，その切り合い関係を確認するために断ち割りを行ったところ，SK3432 の方が古く，調査区外へと続く SK3431 が新しいものであることが判明した。この両者はほぼ同規模の土坑で

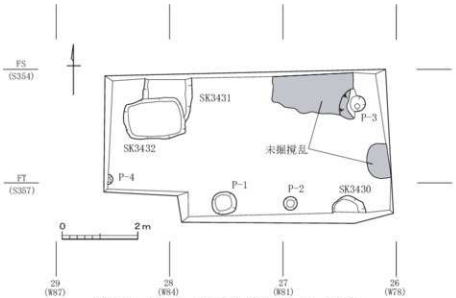
あると考えられる。SK3431 と SK3432 の覆土はⅡ層である黒色土が主体であった。SK3432 の覆土からは比較的多くの土器・瓦片が出土しており，特に国分寺市域では類例の少ない白磁椀の出土が注目される。

小穴４基のうち P-2 と P-3 は規模が類似しており，柵列等の可能性が指摘できる。P-1 は深さが非常に浅かったが，上面から女瓦が１点出土している。

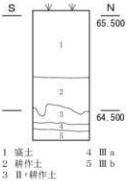
調査は小規模面積ながら，既往調査の遺構検出密度と変わらない７基の遺構を検出したことは，今後周辺遺構の性格を知る上で貴重な情報の一つとなった。



第８図　ＭＫⅢ－ 673 調査区配置図（1／500）

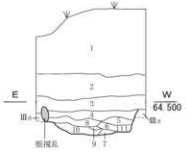


第９図　ＭＫⅢ－ 673 調査区平面図（1／100）



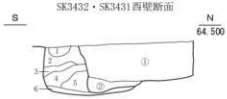
第 10 図　ＭＫⅢ－ 673 調査区土層柱状図

SK3430南壁断面



1 盛土
2 耕作土
3 Ⅱ層+耕作土
4 黒色土　粘性ややあり、しまりなし。ローム粒子を多く含む。
5 黒色土　粘性、しまりややあり。ローム粒子を少量含む。
6 黒色土　粘性、しまりやや良好。１、２層よりもローム粒子は少ない。
7 暗茶色土　粘性、しまり良好。含有物は微量。
8 暗黄色土　粘性、しまりやや良好。ローム粒子、赤色スコリア、白色粒子、黄色粘質土をしみ状に含む。
9 暗黄色土　粘性、しまりややあり。５層を基層とするが含有物は微量。
10 黒色土　粘性、しまり良好。赤色スコリアを微量含む。
11 黒色土　粘性、しまりややあり。含有物は微量で３層に比してややくらい。

SK3432・SK3431西壁断面



SK3431
① 黒色土　粘性なし、しまりややあり。ローム粒子、ロームブロックを多量に含む。
② 黄色土　粘性なし、しまり良好。ロームの埋土。

SK3432南壁断面

SK3432
1 黒色土　粘性なし、しまりややあり。ロームブロックを多く含む。
2 黒色土　粘性、しまりなし。黄色粘質土ブロックをしみ状に含む。
3 黒色土　粘性、しまりなし。黒色土とロームブロックとの互層。
4 黒色土　粘性、しまりなし。ローム粒子を少量含む。
5 黒色土　粘性なし、しまりややあり。ロームブロックを多く含む。
6 黒色土　粘性、しまりややあり。ローム粒子を多く含む。
7 黒褐色土　２層とほぼ同じ。粘性なし、しまりややあり。φ２cm大までのロームブロックを非常に多く、焼土粒を極微量含む。
8 黒褐色土　４層とほぼ同じ。粘性なし、しまりややあり。φ１cm大までのロームブロックを少量含む。

P-1
南壁断面

1 黒色土　粘性、しまりなし。スコリアを少量含む。
2 暗茶色土　粘性、しまりややあり。含有物は微量。

P-2
南壁断面

1 暗茶色土　粘性、しまりなし。ローム粒子を少量含む。
2 暗茶色土　粘性、しまりややあり。黄色粘質土を しみ状に含む。

P-3
南壁断面

1 黒色土　粘性、しまりなし。赤色スコリアを微量含む。
2 黒色土　粘性、しまりなし。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。
3 暗黄色土　粘性、しまりなし。黄色粘質土粒子を多く含む。
4 暗黄色土　粘性、しまりなし。ロームブロック、ローム粒子、黄色粘質土粒子を多く含む。

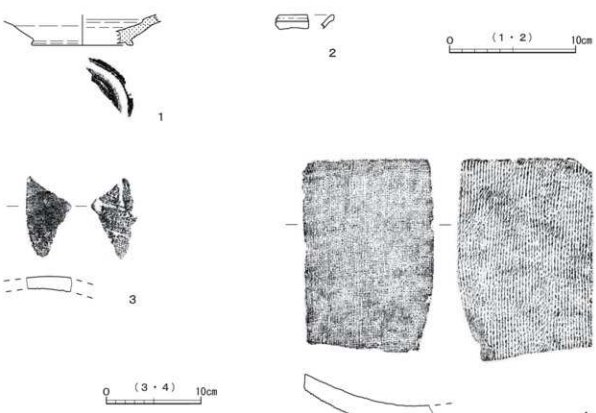
第 11 図　遺構断面図（1／40）

第 12 図　調査区全景東半（北から）

第 13 図　SK3430 南壁（北から）

第 14 図　SK3431・3432 完掘状況（南から）

第 15 図　調査風景（測量調査）



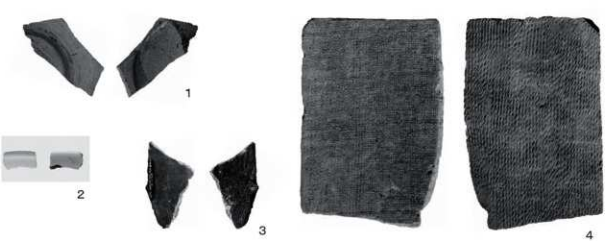
第 16 図　出土遺物実測図（土器 1／3・瓦 1／4）

第５表　ＭＫⅢ－ 673 遺物観察表（土器）

図面 図版	遺物 番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成形・整形 の特徴	残存量 （部位）	焼成 色調 胎土	備考
第 16 図 1 第 17 図 1	PN01	灰釉 陶器 段皿	SK 3432	— (2.4) ((8.0))	肉厚な胎土で，高台はやや低めの角高台形を呈する。	高台の内側は回転ナデ。見込みには淡緑色の降灰釉が付着。	体部下半～底部 １／５	焼成良好。素地の色調は明灰色。 砂粒・石英を少量含む。	黒笹 14 号窯式 ９世紀前半
第 16 図 2 第 17 図 2	PQ01	白磁 椀	SK 3432	— (1.2) —	小さな玉縁口縁を呈し，器壁はやや薄い。	素地は明灰色で緻密だが，空洞あり。	口縁部 小片	釉調は均一で表面は滑らか。乳白色。	大宰府分類 白磁椀Ⅰ類

第６表　ＭＫⅢ－ 673 遺物観察表（瓦）

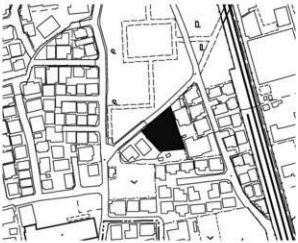
図面 図版	遺物 番号	出土 位置	狭端 広端 全長 厚さ	成形・整形の特徴				残存量	焼成 色調 胎土	備考
				素材 技法	凹面 布目 特徴	凸面 叩き 特徴	端面 特徴			
第 16 図 3 第 17 図 3	KC01	SK 3432	— — (8.2) 1.3	不明	縦 15 横 12	横位調整。		小片	焼成やや良好。色調黒灰色。内側赤褐色。胎土は密。２㎜弱の海綿骨針含む。	凹面に不明ヘラ書きあり。南比企窯跡群産か。
第 16 図 4 第 17 図 4	KD01	P-1	(13.3) — (21.5) 2.0	粘土紐か一枚作り	縦 17 横 18 凹面側縁ヘラケズリ。端縁無調整。	縄目 L10 本 縦位の縄タタキ。	側面・端面ともにヘラケズリ	２／３	焼成良好。色調灰色。胎土砂質。	南多摩窯跡群産か。



第 17 図　出土遺物写真

（2）武蔵国分寺跡（尼寺）第 675 次

所在地	国分寺市西元町 4 -13804-11・13		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成 24 年 3 月 6 日～3 月 23 日		
調査面積	41.51 ㎡	遺物箱数	2 箱
検出遺構	SB142・SD44		
主な遺物	須恵器・土師器・瓦		
調査員	中道・小野本		



第 18 図 ＭＫⅢ－ 675 調査地位置図

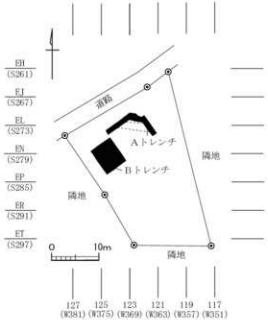
調査地は，武蔵国分寺跡（№ 10・19）の尼寺伽藍地内に該当し，中門跡（SB142）や中枢部を区画する掘立柱塀（SA19）・南辺溝（SD44）などが位置する地点である。

中門跡の北西部分は，国史跡に指定された公有地で，史跡環境整備事業に伴って発掘調査されている（国分寺市教育委員会 1995『武蔵国分尼寺Ⅱ 平成 5 年度発掘調査概報』），現在では金堂・尼坊跡などとともに市立歴史公園として平成 15 年度より開園している。この公園と本調査地の間にある市道では，公共下水敷設に伴って調査が行われており（第 143 次調査），すでに『武蔵国分寺跡発掘調査概報ＸＸＩ』にて市教委が 1996 年に報告をしている。

届出は，文化財保護法第 93 条第 1 項に基づき，平成 24 年 1 月 16 日付で土地所有者より市教委に提出された。これを受けて平成 24 年 1 月 17 日付 国教教ふ収第 745 号にて，市の意見を「事前調査（1）工事等により埋蔵文化財が掘削されるため。」と決定し，協議代理人への連絡を行った。平成 24 年 1 月 20 日に，市教委と同代理人との協議が行われ，調査地周辺および調査地の状況を説明し，合意に至った。また，同日上記について東京都への進達を行った。東京都からは，平成 24 年 1 月 26 日付 24 教地管理第 2562 号で事前の発掘調査の通知があった。

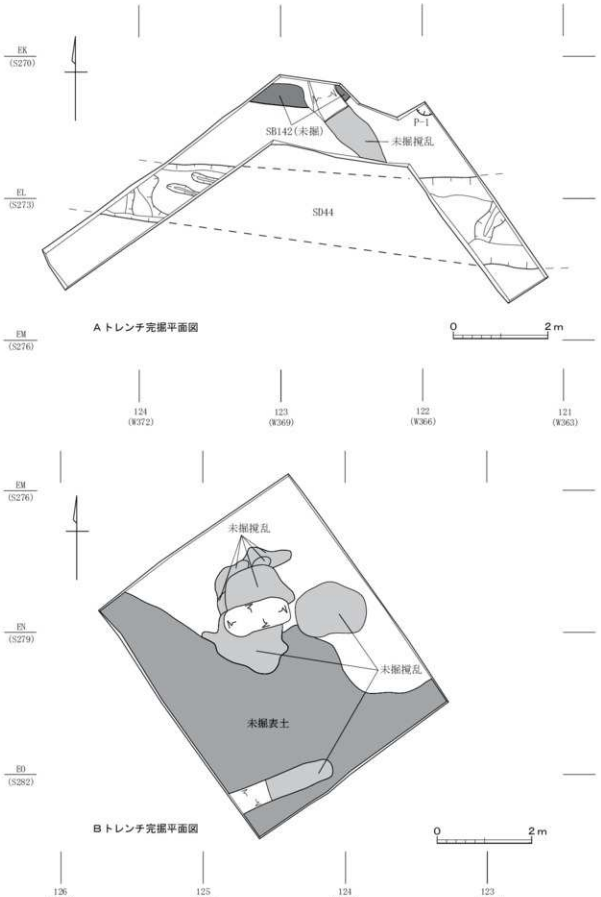
これらの経緯から，平成 24 年 3 月 1 日に市教委が発掘調査の委託を行っている市遺跡調査会に指示し，本発掘調査を行ったものである。

調査や以下に述べる現地保存にあたっては，土地所有者のご理解とご協力をいただき，施工業者とも調整を行いながら進めた。調査区は，計画建物や給排水管等によって遺構が損壊する可能性がある範囲にＡトレンチ，また，中門中軸線上で，通路状の遺構が発見される可能性がある部分にＢトレンチを，植栽を避けてそれぞれ設定した。敷地面積 628.25 ㎡に対し，調査面積は 41.51 ㎡，現地調査は平成 24 年 3 月 6 日から 3 月 23 日で，実働 13 日である。



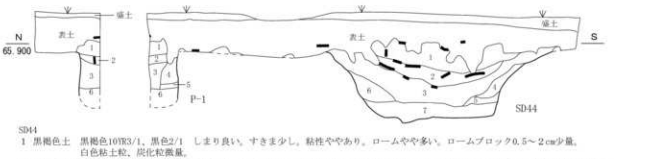
第 19 図 ＭＫⅢ－ 675 調査区配置図（1 ／ 800）

その後，武蔵国分寺跡尼寺の中門基壇の一部（南東隅）が検出されたことから，現地保存にかかる



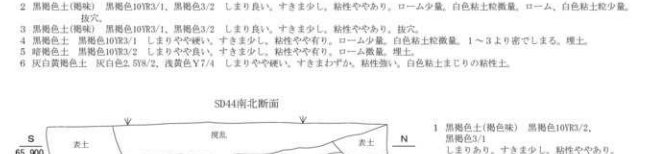
第 20 図　ＭＫⅢ－ 675 調査区平面図（１／80）

1　黒褐色土　黒褐色10YR3/1　しまりあり。すきまなし。粘性ややあり。ロームやや多い。
2　黒褐色土　黒褐色10YR3/1，黒色2/1　しまりあり。すきまなし。粘性ややあり。ローム、ロームブロック0.5cm少量。白色粘土粒微量。
3　灰暗褐色土　黒褐色10YR3/2，褐灰色4/1　しまりあり。すきまなし。粘性ややあり。ローム多い。
4　黄褐色土　明黄褐色10YR6/6　しまりあり。すきまなし。粘性あり。ローム土(ロームブロック)からなる。すきまに黒褐色土少量。



SD44
1　黒褐色土　黒褐色10YR3/1，黒色2/1　しまり良い。すきまなし。粘性ややあり。ロームやや多い。ロームブロック0.5～2cm少量。
　　白色粘土粒、炭化粒微量。
2　黒褐色土(褐色味)　黒褐色10YR3/2，黒褐色3/1　しまりあり。すきまなし。粘性ややあり。ローム(微粒子)やや多い。白色粘土粒を微量。
　　瓦多く出土。
3　黒褐色土　黒褐色10YR3/1，黒色2/1　しまりあり。すきまなし。粘性ややあり。ローム少量。ロームブロック0.5cm・白色粘土粒極微量。
4　灰暗褐色土(黄味)　黒褐色10YR3/2，灰黄褐色4/2　しまりややあり。すきまなし。粘性ややあり。ローム多い。ロームブロック0.5cm少量。
5　黒褐色土　黒褐色10YR3/1　しまり良い。すきまなし。粘性あり。ローム多い。
6　暗褐色土　黒褐色10YR3/2，黒褐色3/1　しまりややあり。すきまなし。粘性ややあり。ローム少量。ロームブロック微量。
7　黄褐色土　明黄褐色10YR6/6　しまり硬い。すきまなし。粘性あり。ロームブロック主体。黒褐色土少量すきまに混じる。

P-1
1　灰暗褐色土　黒褐色10YR3/2，灰黄褐色4/2，黒褐色3/1　しまりやや硬い。すきまなし。粘性有り。ローム少量。白色粘土粒を微量。灰黄褐色の
　　粘性土まじり。抜穴。
2　黒褐色土(褐味)　黒褐色10YR3/1，黒褐色3/2　しまり良い。すきまなし。粘性ややあり。ローム少量。白色粘土粒微量。ローム、白色粘土粒少量。
　　抜穴。
3　黒褐色土(褐味)　黒褐色10YR3/1，黒褐色3/2　しまり良い。すきまなし。粘性ややあり。抜穴。
4　黒褐色土　黒褐色10YR3/1　しまりやや硬い。すきまなし。粘性やや有り。ローム少量。白色粘土粒微量。1～3より密でしまる。埋土。
5　暗褐色土　黒褐色10YR3/2　しまりやや良い。すきまなし。粘性やや有り。ローム微量。埋土。
6　灰白黄褐色土　灰白色2.5Y8/2，浅黄色Y7/4　しまりやや硬い。すきまわずか。粘性強い。白色粘土まじりの粘性土。

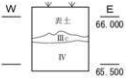


1　黒褐色土(褐色味)　黒褐色10YR3/2，
　　黒褐色3/1
　　しまりあり。すきまなし。粘性ややあり。
　　ローム(微粒子)やや多い。白色粘土粒を
　　微量。瓦多く出土。
2　黒褐色土　黒褐色10YR3/1，黒褐色3/2
　　しまりややあり。すきまなし。粘性やや
　　あり。ローム中やや多い。
3　黒褐色土　黒褐色10YR3/1，黒褐色3/2
　　しまりややあり。すきまなし。粘性やや
　　あり。ローム少量。白色粘土粒微量。

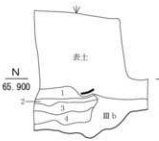
4　灰暗褐色土　黒褐色10YR3/2，灰黄褐色4/2　しまりややあり。すきまなし。粘性ややあり。ローム(微粒)多い。白色粘土粒微量。
5　黒褐色土　黒褐色10YR3/1　しまり硬い。すきまなし。粘性ややあり。ローム少量。
6　灰黄褐色土　黄褐色2.5Y5/4，黄褐色5/6　しまりあり。すきまなし。粘性あり。ローム、ロームブロック多い。白色粘土粒少量。くすんだ
　　土。ややこなれ硬くない。密ではない。
7　暗茶褐色土　黒褐色10YR3/2，暗褐色3/3　しまり良い。すきまなし。粘性あり。ローム、ロームブロック少量。Ⅲ層(b～c)ブロック含む。
8　茶褐色土　黒褐色7.5YR3/1　しまりやや良い。すきまなし。粘性ややあり。ローム多い。ロームブロック0.5cm少量。ザラザラ
　　する。
9　黒褐色土　黒色10YR2/1　しまりあり。すきまなし。粘性ややあり。ローム少量。ロームブロック0.5～1cm部分的に入る。
　　白色粘土粒極微量。
10　黒褐色土　黒褐色10YR3/2，黒色2/1　しまりあり。すきまなし。粘性ややあり。ローム含む。ロームブロック0.5cm少量。
11　黒褐色土　黒褐色10YR3/1　しまりややあり。すきまなし。粘性ややあり。ローム多い。
12　黄褐色土　明黄褐色10YR6/6　しまり硬い。すきまなし。粘性あり。ロームブロック主体。黒褐色土少量すきまに混じる。

第21図　ＭＫⅢ－675調査区壁断面図（1／40）

1 暗黄色土　粘性あり。しまり良好。
　ロームと暗褐色土との互層。版築土。
2 暗茶色土　粘性あり。しまり良好。
　ローム粒子を少量含む。版築土。
3 暗黄色土　粘性あり。しまり良好。
　ロームブロック。版築土。



第 22 図　土層柱状図



1 暗黄色土　粘性、しまりややあり。白色粘質土を微量。ローム粒子を
　多く含む。版築土。
2 暗茶色土　粘性あり。しまり良好。黒色土とロームブロックの互層。
　版築土。
3 暗黄色土　粘性あり。しまり良好。暗茶色土とロームブロックの互層。
　版築土。
4 暗黄色土　粘性あり。しまり良好。ロームを主体とし黒色土がしみ状
　に混入する。版築土。

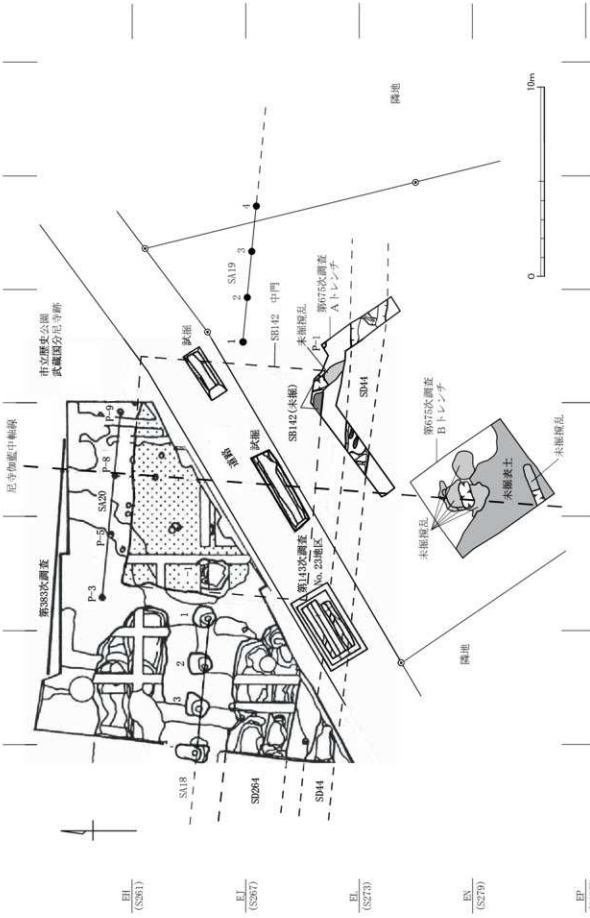
第 23 図　遺構断面図（1／20）

協議を実施した。平成 24 年３月 13 日付事務連絡「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（協議）」にて市教委ふるさと文化財課長より土地所有者２名に対して，工事施工範囲内で尼寺中門基壇の南東隅部分（版築土）が検出されたことから，工事において当該遺構を破壊しないよう配慮して頂くよう依頼した。その結果，事業者のご理解・ご協力を得て設計変更を行い，中門基壇を避けて敷設することとなった。また，給排水管敷設により壊される南辺区画溝（SD44）については，今次の発掘調査で記録保存の措置をとることとなった。なお，発掘調査終了後，保護対象の中門遺構上面にはブルーシートによる養生を施した。

Ａトレンチ内では，地表面から 30 ㎝～ 60 ㎝の深さにおいて，Ⅲｃ層やⅣ層が遺存していたことから，その面において遺構確認を行った。その結果，尼寺中門基壇跡（SB142），溝跡１条（SD44），小穴１基（P-1）を検出した。

SB142 尼寺中門跡はＡトレンチの北端に位置し，Ⅲｂ層に対して暗黄褐色土の硬質面の広がりとして平面プランを確認した。遺構確認面の標高は，約 65.85 ｍであった。検出された範囲は東西 2.15 ｍ，南北 0.55 ｍを測り，北・西側はさらに調査区外へと広がっている模様だが，硬質面の一部は旧水道管で撹乱され，撹乱坑覆土および付近の表土には細かいローム粒や黒色土粒が多く含まれていた。この撹乱を挟んだ西側は，硬質面南縁がほぼ東西方向を示すのに対し，東側硬質面の縁はやや北東を向いており，検出した硬質面はその南東隅部分に相当することが考えられる。なお，撹乱掘方で硬質面の厚みを観察したところ，深さ約 20㎝ 程の掘り込みを伴うことが判明し，さらに４層の版築が確認された。また，掘方の底面は凹凸に富んでいるが，南壁はやや直立気味に立ち上がっている。

さて，平成５年度に市道を挟んだ北側で実施した発掘調査においても，SB142 の延長部分が確認されている。その時の遺構確認面の標高は 66.15 ｍで，今次調査で検出した硬質面上面よりも約 30㎝ 程高い。また，掘り込みの深さは 35㎝ を測り，掘り方の底面レベルも今次調査地点より相対的に約 25㎝ 程高いことになる。従って，中門基壇に伴う掘り込み地業は，北西に比べて南東側の方が低いと想定されるが，いずれの地点においても基壇部を含む掘り込み地業の上半は後世の造成等によって削平されていることが伺える。



第24図 周辺調査状況図（1／200）

第 25 図　Ａトレンチ東部 SD44 検出状況（北西から）

第 26 図　Ａトレンチ東部 SD44 完掘状況（北西から）

第 27 図　Ａトレンチ西部 SD44 完掘状況（北東から）

第 28 図　Ａトレンチ西部 SD44 西壁断面（南東から）

第 29 図　Ａトレンチ東部 SD44 東壁断面（南西から）

第 30 図　SB142 基壇土検出状況（南から）

第 31 図　SB142 基壇土検出状況（北から）

第32図 SB142東壁版築土（南西から）

第33図 SB142西壁断面（東から）

第34図 Bトレンチ全景（北東から）

第35図 調査風景（Aトレンチ西部掘削）

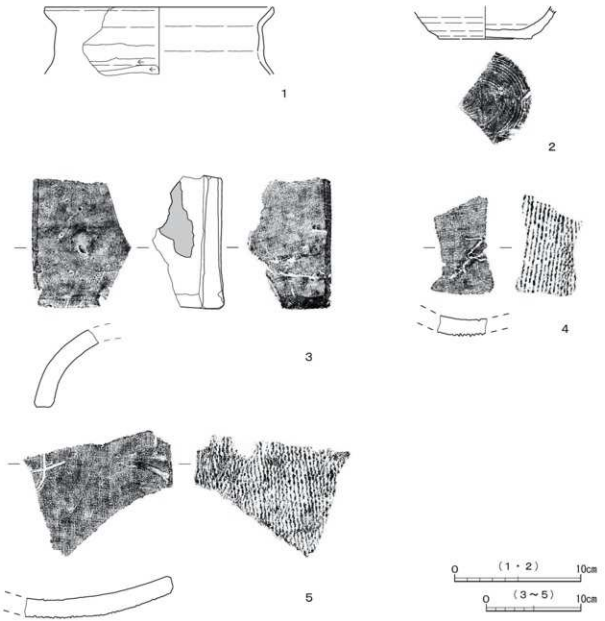
なお，両地点の成果を付き合わせると，中門基壇に伴う掘り込み地業の規模は，東西12.5m，南北9.7mを測ることが確認された。

SD44溝跡は，尼寺の伽藍中枢部を区画する南辺溝で，SB142およびSA19の外側をめぐる。その規模は上面幅が約1.8m，底面幅が約1.1m，遺構確認面からの深さは約70cmを測る。覆土上層からは瓦や土器が出土した。今回の調査によって，溝はSB142の前面も途切れずに掘り込まれていることがほぼ確実となった。このため，中門前面に橋状の施設（土橋・木製の橋）が設置された可能性が想定されたが，溝の覆土中において一部かたく締まる層が確認されたものの，調査区内では橋にかかわる明確な痕跡は確認されなかった。

その他にSB142の東側では，P-1が検出された。平成5年度調査では，中門北縁に沿って小穴が検出され，「掘り込み地業基壇地上部積み上げ土の崩落防止用の枠板を固定する小柱跡（堰板添柱）の可能性」が想定されている。検出されたP-1も柱穴と考えられることから，今後の検討課題として，中門跡に伴う遺構の可能性を考えておきたい。

Bトレンチ内は，地表面から約50cmの深さにおいて，Ⅲb層上面にて遺構確認を行った。トレンチの南西部分は表土層で遺構確認面に達していないが，工事によって遺跡に影響が及ばないものと判断し，更なる掘削は行わなかった。なお，調査地の旧地形については，A・Bトレンチにおける地山層位のレベルから，南西に向かって落ち込んでいることが確認された。

今次調査は，尼寺の主要建物の一つである中門跡が確認され，貴重な調査成果を得た。それとともに，多くの方のご理解・ご協力を得て，中門遺構を現地保存することができた事例として重要な意味をもつ調査となった。



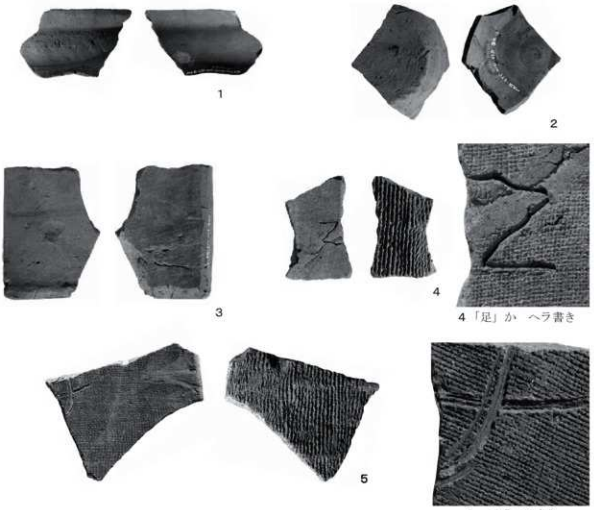
第 36 図　出土遺物実測図（土器１／３・瓦１／４）

第７表　ＭＫⅢ－ 675 遺物観察表（土器）

図面 図版	遺物 番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の 特徴	成形・整形 特徴	残存量 （部位）	焼成 色調 胎土	備考
第 36 図 1 第 37 図 1	PH01	土師器 甕	SD44 上層	((18.0)) (5.4) —	「コ」の 字状口縁	口縁部内外面ともにヨコナデ。胴部上半は横方向のヘラケズリ。	口縁部 ～頸部	焼成良好。色調橙褐色。胎土は砂粒・雲母を微量に含む。	武蔵型甕 ９世紀末 ～ 10 世紀前半
第 36 図 2 第 37 図 2	PK01	須恵器 坏	表土	— (2.6) ((7.2))	体部はやや内湾気味に立ち上がる。	回転ナデ後，回転糸切り後無調整。	体部下半 ～底部 １／３	焼成良好。色調明灰褐色。胎土は砂粒・石英・角閃石を含む。	東金子窯跡群産。９世紀前半。

第８表　ＭＫⅢ－675遺物観察表（瓦）

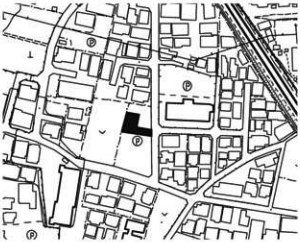
図面 図版	遺物 番号	出土 位置	狭端 広端 全長 厚さ	成形・整形の特徴 素材 技法	凹面 布目 特徴	凸面 叩き	端面 特徴	残存量	焼成 色調 胎土	備考
第36図3 第37図3	KC01	表土	— — (14.1) 1.9	粘土紐	縦42 横46 側縁・端縁 ヘラケズリ。	横位調整。 側縁と端縁にヘラケズリ。	側面はヘラケズリ。	1／10	焼成良好。 色調暗灰色。胎土緻密。	凹面に不明朱墨あり。
第36図4 第37図4	KD01	SD44 上層	— — (10.1) 1.7	一枚作り	縦28 横27	縄目Ｌ７ 縦位の縄目タタキ。		1／12	焼成やや不良。色調淡灰色。胎土は粗雑で砂質。	凹面にヘラ書き「足」か。 東金子窯跡群産か。
第36図5 第37図5	KD02	南区 表土	— — (13.5) 2.1	一枚作り	縦25 横24 側縁ナデ。	縄目Ｌ７ 縦位の縄目タタキ。 側縁ナデ。	側面ヘラケズリ。	1／10	焼成良好。 色調暗灰色。	凹面に不明ヘラ書きあり。



第37図　出土遺物写真

（３）恋ヶ窪遺跡第 88 次

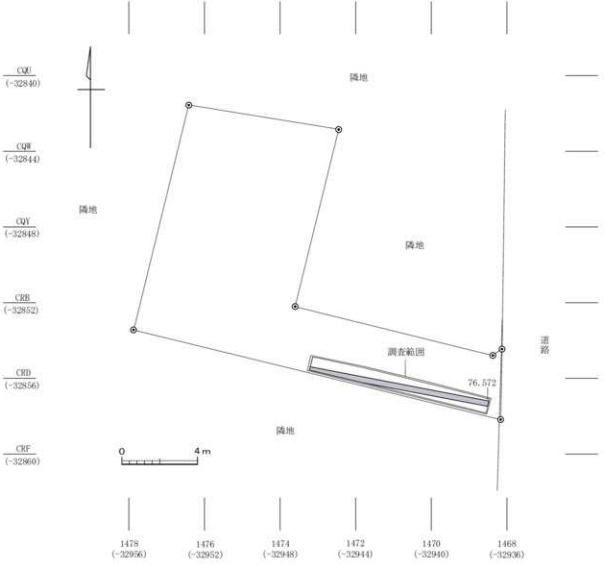
所在地	国分寺市西恋ヶ窪１－25－40		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成 23 年５月 12 日～５月 13 日		
調査面積	7.40 ㎡	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
調査員	小野本		



第 38 図　Ｋ２－88 調査地位置図

調査地は，恋ヶ窪遺跡（№２）に該当する。

恋ヶ窪遺跡は西恋ヶ窪一丁目に展開する遺跡で，野川を見下ろす武蔵野台地上に立地する。この付近ではかつて多くの湧水が確認されており，そのような地理的条件から縄文時代中期の一大集落が形成されている。また，遺跡範囲内のやや西よりを南北に古代の東山道武蔵路（№58 遺跡）が通過している。



第 39 図　Ｋ２－88 調査地全体図（1／200）

当該地は，遺跡の中心から北西に位置し，縄文時代と古代の遺構が検出される可能性があったことから，計画建物の給排水管埋設部にあたる範囲を対象として，記録保存調査を行った。

調査区内は，地表面から 40 ～ 50 ㎝まで表土に覆われており，その下層において，遺構確認面であるⅢｂ層を検出したが，遺構・遺物ともに検出されなかった。

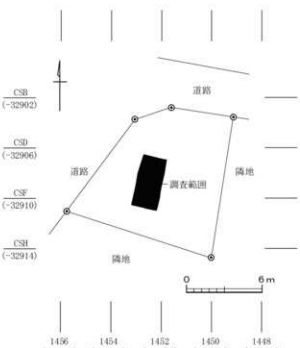
第 40 図　調査区全景（東から）

第 41 図　調査区土層断面（南から）

（4）恋ヶ窪遺跡第 89 次

所在地	国分寺市西恋ヶ窪１－18－16		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成 23 年８月 24 日～９月５日		
調査面積	7.96 ㎡	遺物箱数	２箱
検出遺構	SK204J		
主な遺物	縄文土器・石器		
調査員	寺前		

第 42 図　Ｋ２－89 調査地位置図



第 43 図　Ｋ２－89 調査区配置図（1／300）

調査地は，恋ヶ窪遺跡（№２）に該当する。恋ヶ窪遺跡は，東西南の三方向を谷によって囲まれた舌状台地南西縁に広がっており，この周辺には本遺跡同様に縄文時代中期を中心とした遺跡が多数存在する。調査地は遺跡の中心にあたる西武国分寺線沿いの通称「三角土地」（第 14・16 ～ 19・21・26 次調査）から南西にわずか 50 ｍに位置している。

さらに，当該地とその南東にかけての一帯（西恋ヶ窪１－18－９～12）は，平成元年に市による遺跡確認調査（第34次調査），平成５年２月から３月にかけては開発による調査（第44次調査）を行っている地点である。いずれも未報告であるが，とくに第44次調査は，規模の大きい調査であった。また，調査地の北側を東西に走る市道中77号線上では公共下水道の埋設に伴い本調査を行っている（第36次調査）ほか，調査地西側を走る道路上でも調査を行っており（第40次調査），ともに『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅷ』（国分寺市遺跡調査会1997）に報告されている。

ここで第44次調査の内容に触れておく。調査では，縄文時代中期の遺構が密集しており，遺構13基，遺物20箱が検出されている。そのうち，竪穴建物７棟からは，炉や埋甕が確認されている。その覆土から出土した土器は，勝坂Ⅲ式から加曽利Ｅ式にかけてのものが中心で，勝坂式期の竪穴建物が濃密に分布する「三角土地」よりやや時期が後出する結果となった。竪穴建物以外では，土坑が３基確認され，その形態から落とし穴と類推できる。遺物は勝坂式期のものは全体的に少なく，縄文のみの深鉢形土器や連弧文土器，沈線による懸垂文をもつ埋甕，耳栓，土偶，石鏃などが出土した。

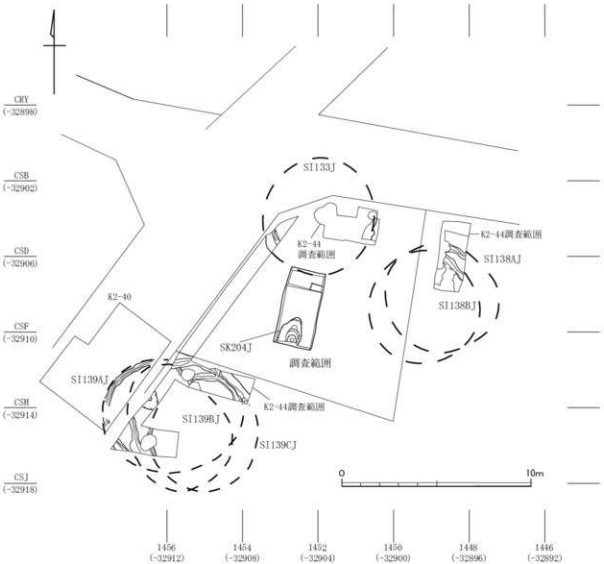
さて，本次調査では，計画建物の範囲がこれらの既往調査の間隙であったため，遺構に影響が及ぶと判断される当該範囲を対象とした記録保存調査を行ったものである。調査地は北面および西面の道路から盛土をしてあったが，その現地表面から慎重に重機で掘削し，約50ｃｍで縄文時代の遺物包含層（Ⅲｂ層）が遺存していたため，その上面にて止めた。Ⅲｂ層を人力で掘削したところ，勝坂Ⅱ式～加曽利Ｅ３式の縄文土器や石器が多く出土し，その中心時期は勝坂Ⅲ式～加曽利Ｅ２式であった。

さらに現地表面下約75ｃｍにあたるⅢｃ層上面で土坑１基（SK204J）を検出した。SK204Jは，平面は楕円形を呈し，短軸1.1ｍ，長軸1.5ｍ，深さ55㎝を測る。遺構の南端は調査区外へ延び，最大幅や最深部の位置を考慮するとおおよそ２ｍ前後になるとみられる。第44次調査で確認された土坑よりも大型であるが，長軸に沿って段状に平坦面が形成されている形態は類似している。その形態から落とし穴である可能性もあるが，明確な痕跡は確認できなかった。SK204J覆土中の遺物は上層・中層に最も多く，最深部を含む下層からはほとんど出土しなかった。遺物はⅢｂ層と同じ様相を示し，勝坂Ⅰ式１点，勝坂Ⅱ式数点のほか，勝坂Ⅲ式から加曽利Ｅ２式にかけてが中心となる。

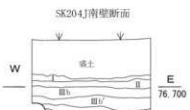
さらに，第44次調査で確認されたSI133Jの南端が調査区北端で検出される可能性があったが，平面での確認は困難であった。ただし，調査区北壁断面においてⅢｂ層が周囲よりも窪む箇所があったこと，この付近の掘削時に縄文土器の出土が多かったことから，この窪みがＫ２－44調査におけるSI133Jの一部である可能性が考えられる。

なお，調査区北側の１ｍ×２ｍ四方をＶａ層まで人力掘削したが，この範囲の中では縄文時代前期以前の遺構・遺物は検出されなかった。

以上のことから，当該調査では，縄文時代中期後半から後期初頭に比定される土坑が検出され，第34・44次調査と同時期のものであることがわかった。当該地では幾度となく調査が行われ，また遺構のあり方も集落の中心からはややはずれた様相を示すものの，敷地内の未調査の部分には遺構が遺存している可能性が高いことが追認された。



第44図　調査区平面図および周辺調査状況（1／200）



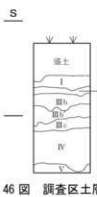
1　黒褐色粘質土　7.5YR3/2黒褐色極細粒砂。しまり良し。Ⅲc層と同程度の赤スコリア（褐色味の強いもの、黄味の強いものあり）を含む。炭化物は含まず。根撹乱も多い。この土坑中で、下層が最も土器を包含する。なおSK204Jの上部（Ⅲb'層中）も土器の出土が多い。

2　1層より暗いが、よく似た土質。赤スコリアの含有率が1層より高い。極細粒砂～細粒砂。ロームブロックが混じる。

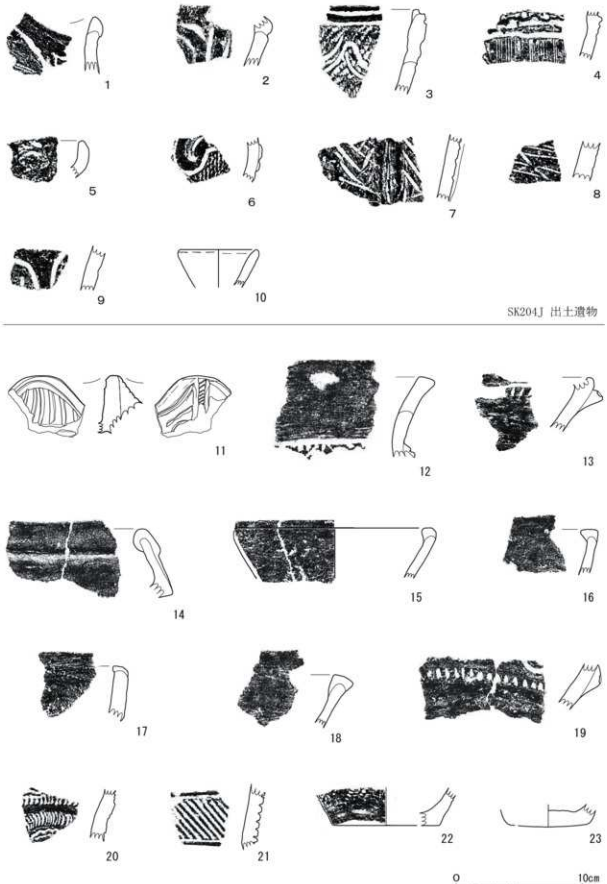
3　黄褐色～褐色土　10YR5/6黄褐色～10YR4/4褐色　極細粒砂～細粒砂。色味は4層より暗く、しまりは2層より悪い。赤スコリア（褐色味の強いもの、黄味の強いものあり）を含む。根撹乱多い。

4　褐色土　10YR4/6褐色　ほぼローム由来土で粘性高い。極細粒砂。しまりやや悪い。根撹乱や有機質まじりで汚い。土器等遺物の出土はなし。赤スコリアの含有率は他層より高い。

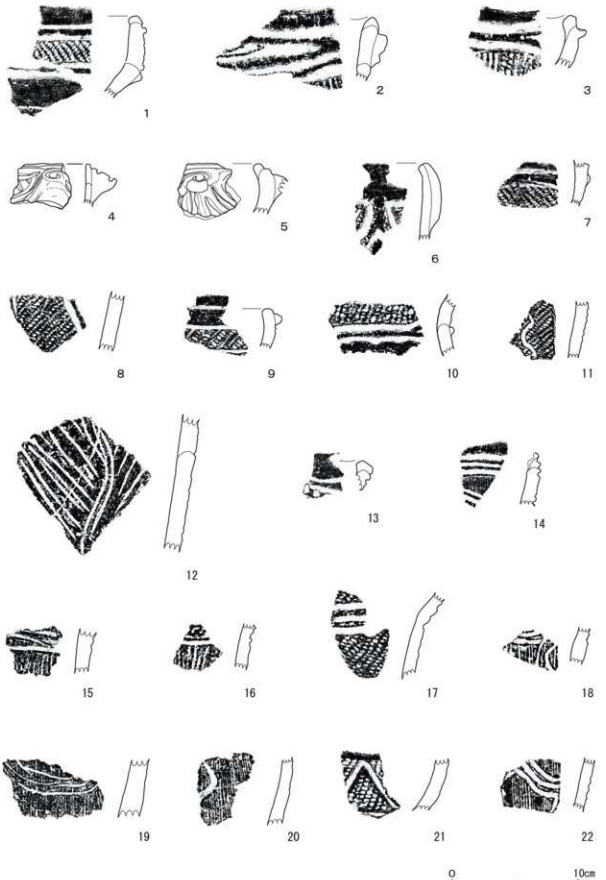
第45図　SK204J遺構断面図（1／40）



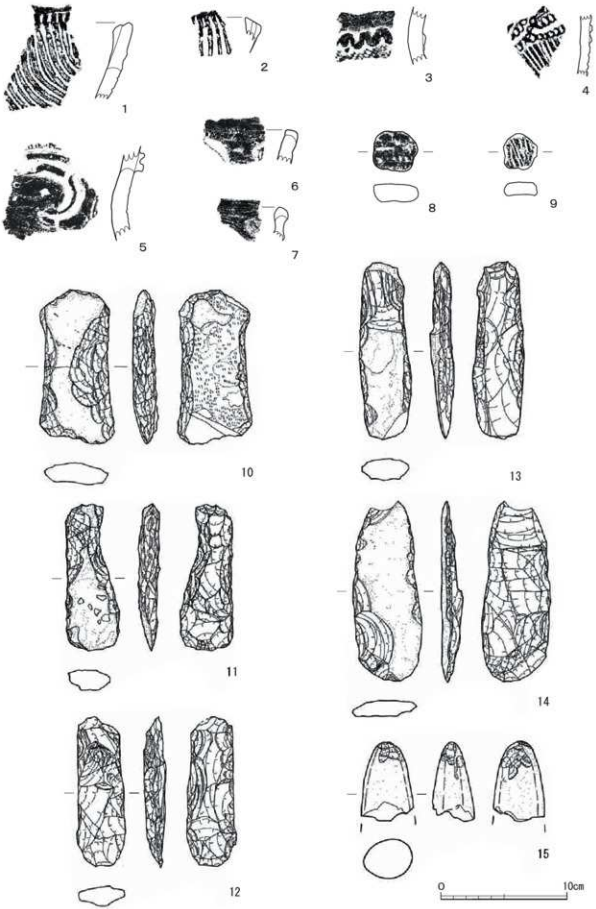
第46図　調査区土層柱状図



第 47 図　出土遺物実測図１（１／３）



第48図　出土遺物実測図２（１／３）



第 49 図　出土遺物実測図３（１／３）

第９表　Ｋ２－89 遺物観察表（土器）

図面 図版	遺物 番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形 の特徴	成形・整形 の特徴	残存量 （部位）	焼成 色調 胎土	備考
第 47 図 1 第 54 図 1	JE01	深鉢	SK204J 上層	— (4.8) —	波状口縁 の波頂部。	沈線による区画。区画の内側は無文。内面調整は行われていない。	口縁部	焼成やや良好。赤褐色。胎土はやや粗く，砂粒を多く含む。	勝坂Ⅰ式
第 47 図 2 第 54 図 2	JE02	深鉢	SK204J 上層	— (4.0) —	欠損部が多く，全容不明。	沈線で区画し，内側をナデる。内面は粗い磨き。	口縁部	焼成は不良。外面は褐色，内面は黒色。胎土は粗く，砂粒を多く含む。	勝坂Ⅲ式
第 47 図 3 第 54 図 3	JF09	深鉢	SK204J 上層	— (6.9) —	連弧文土器。欠損部が多く，全容不明。	口縁部に２本の沈線を廻らす。Ｒしの縄文を地文とし，２本の沈線による弧線文を施す。	口縁部	焼成やや良好。暗褐色。胎土は白色砂粒を多く含む。	
第 47 図 4 第 54 図 4	JF15	深鉢	SK204J 上層	— (3.9) —	連弧文系土器。欠損部が多く，全容不明。	櫛描状の条線を地文とし，細い貼付隆帯列点を施す。１条の沈線を廻らす。内面は丁寧な磨き。	胴部	焼成良好。暗茶褐色。胎土は緻密で砂粒を多く含む。	加曽利Ｅ２式
第 47 図 5 第 54 図 5	JF22	深鉢	SK204J 上層	— (3.0) —	湾曲する波状口縁。外面中央部欠損。	内外面ともに粗いナデ。	口縁部	焼成不良。胎土は粗く，白色砂粒を多く含む。	加曽利Ｅ２式
第 47 図 6 第 54 図 6	JF29	深鉢	SK204J 上層	— (3.6) —	欠損部が多く，全容不明。	縄文を地文とし，貼付隆帯による渦巻文を施す。内面は比較的丁寧な磨き。	胴部	焼成やや良好。赤褐色。胎土はやや粗く，白色砂粒を多く含む。	曽利Ⅱ式
第 47 図 7 第 54 図 9	JF32	深鉢	SK204J 上層	— (5.3) —	欠損部が多く，全容不明。	２本１組の垂下する貼付隆帯。沈線による綾杉文を施す。内面はやや粗い磨き。	胴部	焼成良好。赤褐色。胎土は粗く，白色砂粒を多量に含む。	加曽利Ｅ２式
第 47 図 8 第 54 図 7	JF35	深鉢	SK204J 上層	— (3.2) —	欠損部が多く，全容不明。	交叉する粗い集合沈線。内面は粗い磨き。	胴部	焼成良好。赤褐色。胎土はやや粗く，１～２㎜大の砂粒を多く含む。	曽利Ⅲ式
第 47 図 9 第 54 図 8	JF36	深鉢	SK204J 上層	— (3.5) —	欠損部が多く，全容不明。	縄文を地文とし，磨り消し後に沈線を２本施す。内面は丁寧な磨き。	胴部	焼成不良。胎土は粗く，２㎜大の砂粒を多く含む。	加曽利Ｅ３式

第 47 図 10 第 54 図 10	DA01	ミニチュア土器	SK204J 上層	(6.0) (3.1) —	欠損部が多く，全容不明。	無文。内外面ともに粗い磨き。	口縁部	焼成良好。暗灰色。胎土はやや緻密。	
第 47 図 11 第 54 図 11	JE03	深鉢	Ⅲｂ層	— (4.9) —	波状口縁の把手部分。	外面は二条の沈線と刻目を施す。内面は沈線で区画し，内側に集合沈線を施す。	口縁部	焼成良好。内外面ともに暗褐色。胎土は粗く，白色砂粒，２㎜大の小石を多く含む。	勝坂Ⅲ式
第 47 図 12 第 54 図 15	JE04	浅鉢	Ⅲｂ層	— (6.4) —	口縁部から頸部にかけて，「く」の字状に屈曲する。	内外面ともに丁寧な磨き。口縁部は無文。頸部は貼付隆帯上に刻目を施す。	口縁部～頸部	焼成良好。赤褐色。胎土は粗く，１～２㎜大の小石を多く含む。	勝坂Ⅲ式
第 47 図 13 第 54 図 12	JE05	浅鉢	Ⅲｂ層	— (4.3) —	「く」の字状の頸部。	内外面ともに丁寧な磨き。頸部は貼付隆帯上に刻目を施す。	頸部	焼成良好。外面は赤褐色。内面は黒色。胎土には白色砂粒を多く含む。	勝坂Ⅲ式
第 47 図 14 第 54 図 14	JE06	浅鉢	Ⅲｂ層	— (5.4) —	欠損部が多く，全容不明。	口唇部を肉状に貼り付けて肥厚させ，内傾させる。無文。内外面ともに丁寧な磨き。丹塗り。	口縁部	焼成良好。赤褐色。胎土は緻密で，砂粒を多く含む。	勝坂Ⅲ式
第 47 図 15 第 54 図 16	JE07	浅鉢	Ⅲｂ層	((15.4)) (4.0) —	口縁部は外傾する。	口唇部を著しく屈曲させる。無文。外面は比較的丁寧な磨き。内面は粗いナデ。	口縁部	焼成やや良好。暗褐色。胎土はやや粗い。白色砂粒を多く含む。	勝坂Ⅲ式
第 47 図 16 第 54 図 13	JE08	浅鉢	Ⅲｂ層	— (3.7) —	口縁部はほぼ垂直。	口唇部を肥厚させ，内側に突出させる。無文。内外面ともに比較的丁寧な磨き。	口縁部	焼成良好。外面は黒色，内面は茶褐色。胎土は粗く，２㎜大の小石・白色砂粒を多く含む。	勝坂Ⅲ式
第 47 図 17 第 54 図 17	JE09	浅鉢	Ⅲｂ層	— (4.4) —	口縁部はほぼ垂直。	口唇部を肉状に貼り付けて，わずかに肥厚させる。無文。内外面ともにやや丁寧な磨き。	口縁部	焼成良好。暗褐色。胎土は緻密で，白色砂粒を多く含む。	勝坂Ⅲ式
第 47 図 18 第 54 図 18	JE10	浅鉢	Ⅲｂ層	— (4.3) —	口縁部はやや外反する。	口唇部を肉状に貼り付けて肥厚させ，外側に張り出させる。無文。内外面ともに丁寧な磨き。	口縁部	焼成良好。外面灰褐色。内面暗褐色。胎土は粗く，白色砂粒を多く含む。	勝坂Ⅲ式

第 47 図 19 第 55 図 1	JE11	浅鉢	Ⅲ b 層	— (3.6) —	「く」の字状の頸部。	頸部上の貼付隆帯に刻目を施す。内外面ともにやや丁寧な磨き。	頸部	焼成やや良好。黄橙色。胎土は緻密で，白色砂粒を多く含む。	勝坂式期
第 47 図 20 第 55 図 3	JE12	深鉢	Ⅲ b 層	— (4.2) —	欠損部が多く，全容不明。	キャタピラ文を施す。内面は粗いナデ。	胴部	焼成やや良好。暗褐色。胎土は粗く，2～3㎜大の小石を多く含む。	勝坂Ⅱ式
第 47 図 21 第 55 図 2	JE13	深鉢	Ⅲ b 層	— (5.2) —	欠損部が多く，全容不明。	集合沈線によるパネル文。内面調整は粗いナデ。	胴部	焼成やや良好。黄橙色。胎土は比較的緻密だが，2㎜大の小石を微量に含む。	勝坂Ⅱ式
第 47 図 22 第 55 図 4	JE14	浅鉢	Ⅲ b 層	— (3.0) ((8.4))	欠損部が多く，全容不明。	ＲＬの縄文を地文とし，内外面ともに比較的丁寧な磨き。	底部 1／3	焼成やや良好。外面黄橙色。内面灰黒色。胎土は粗い。	勝坂期
第 47 図 23 第 55 図 5	JE15	浅鉢	Ⅲ b 層	— (1.8) ((6.2))	欠損部が多く，全容不明。	外面は比較的丁寧な磨き。内面調整は行われていない。	底部 2／3	焼成やや良好。外面褐色。内面黒色。胎土はやや粗く，2㎜大の小石を少量含む。	勝坂期
第 48 図 1 第 55 図 6	JF01	深鉢	Ⅲ b 層	— (6.5) —	キャリパー形の深鉢。	内外面ともに比較的丁寧な磨き。沈線と隆帯で区画し，その内側にＲＬの縄文を施す。内面調整は粗い磨き。	口縁部～胴部上半 1／3	焼成やや良好。暗茶褐色。胎土は緻密。	加曽利Ｅ１式
第 48 図 2 第 55 図 7	JF02	深鉢	Ⅲ b 層	— (5.0) —	波状口縁の深鉢。欠損が多く，全容不明。	太い貼付隆帯。内面調整は行われていない。	口縁部	焼成やや良好。黄橙色。胎土は粗く，2～3㎜大の小石を多く含む。	加曽利Ｅ１式
第 48 図 3 第 55 図 9	JF05	深鉢	Ⅲ b 層	— (4.2) —	波状口縁の深鉢。	内外面ともに丁寧な磨き。口唇部直下に貼付隆帯を廻らす。楕円区画の中に横位のＲＬ縄文を施す。	口縁部	焼成良好。外面黒色。内面褐色。胎土は緻密。胎土は白色砂粒を多く含む。	加曽利Ｅ１式
第 48 図 4 第 55 図 8	JF03	深鉢	Ⅲ b 層	— (3.6) —	深鉢の把手。	貼付隆帯によって肥厚させた部分に渦巻文と楕円区画を施す。内面調整は丁寧な磨き。	口縁部	焼成良好。赤褐色。胎土は緻密。	加曽利Ｅ１式

第 48 図 5 第 55 図 10	JF04	深鉢	Ⅲ b 層	— (4.5) —	深鉢の把手。	貼付隆帯によって肥厚させた部分に渦巻文を施す。内面調整は丁寧な磨き。	口縁部	焼成良好。黄橙色。胎土は粗く，２～３㎜大の小石を多く含む。	加曽利Ｅ１式
第 48 図 6 第 55 図 11	JF06	深鉢	Ⅲ b 層	— (6.1) —	ほぼ垂直に立ち上がる口縁で，口唇部がわずかに内傾する。	内面に丁寧な磨き。表面は貼付隆帯によって区画し，内側に縄文を施す。	口縁部	焼成やや良好。黄褐色。胎土は粗く，２～３㎜大の小石を多く含む。	加曽利Ｅ１式
第 48 図 7 第 55 図 13	JF08	深鉢	Ⅲ b 層	— (3.8) —	欠損部が多く，全容不明。	貼付隆帯による楕円区画内に横位のＬＲ縄文を施す。内面調整は行われていない。	胴部	焼成やや良好。暗黄褐色。胎土は白色砂粒を多く含む。	加曽利Ｅ１式
第 48 図 8 第 55 図 12	JF07	深鉢	Ⅲ b 層	— (4.8) —	欠損部が多く，全容不明。	２本の沈線間を縦位のＲＬ縄文を施す。内面調整はやや丁寧な磨き。	胴部	焼成良好。暗灰色。胎土は緻密。	加曽利Ｅ１式
第 48 図 9 第 55 図 14	JF21	深鉢	Ⅲ b 層	— (3.2) —	やや湾曲する口縁部。	口唇部に貼付隆帯による突起文を廻らせ，横位のＬＲ縄文を地文とし，沈線で区画する。内面は比較的丁寧な磨き。	口縁部	焼成良好。赤褐色。胎土は粗く，２㎜大の砂粒を少量含む。	加曽利Ｅ２式
第 48 図 10 第 55 図 15	JF23	深鉢	Ⅲ b 層	— (4.9) —	欠損部が多く，全容不明。	「く」の字状に屈曲する頸部。沈線の楕円区画内に縦位のＲＬ縄文を施す。内面は丁寧なナデ。	頸部	焼成不良。胎土は粗く，１～２㎜大の砂粒を多く含む。	加曽利Ｅ２式
第 48 図 11 第 55 図 16	JF24	深鉢	Ⅲ b 層	— (4.4) —	欠損部が多く，全容不明。	横位のＲＬ縄文を地文とし，「Ｓ」の字状沈線を垂下する。内面調整は行われていない。	胴部	焼成不良。胎土は粗く，１～２㎜大の砂粒を多く含む。	加曽利Ｅ２式
第 48 図 12 第 56 図 1	JF31	深鉢	Ⅲ b 層	— (10.5) —	欠損部が多く，全容不明。	２本１組の蛇行沈線が垂下し，沈線による綾杉文を施す。内面はやや粗い磨き。	胴部	焼成不良。赤褐色。胎土は粗く，白色砂粒と２～３㎜大の小石を多く含む。	加曽利Ｅ２式
第 48 図 13 第 56 図 2	JF11	深鉢	Ⅲ b 層	— (2.4) —	波状口縁。欠損部が多く，全容不明。	口縁下に２本の沈線を廻らす。沈線下に列点を施す。	口縁部	焼成良好。暗灰色。胎土は緻密。	連弧文土器。

第 48 図 14 第 56 図 3	JF10	深鉢	Ⅲ b 層	— (4.2) —	欠損部が多く，全容不明。	口縁部に３本の沈線を廻らす。条線を地文とし，２本の沈線による弧線文を施す。	口縁部	焼成良好。暗褐色。胎土は緻密。	連弧文上器。
第 48 図 15 第 56 図 4	JF18	深鉢	Ⅲ b 層	— (3.6) —	欠損部が多く，全容不明。やや括れる頸部。	粗い櫛描状の条線を地文とし，３本の沈線を廻らす。内面調整は行われていない。	頸部	焼成不良。暗褐色。胎土は粗く，砂粒を多く含む。	連弧文系土器。
第 48 図 16 第 56 図 5	JF20	深鉢	Ⅲ b 層	— (3.7) —	欠損部が多く，全容不明。	Ｒの撚糸文を地文とし，１本の沈線を廻らす。さらに上方に細い隆帯を波状に貼り付けて廻らす。内面調整は行われていない。	頸部	焼成やや良好。赤褐色。胎土はやや緻密。	連弧文系土器。
第 48 図 17 第 56 図 6	JF14	深鉢	Ⅲ b 層	— (6.9) —	欠損部が多く，全容不明。	頸部から胴部上半にかけて「く」の字状に括れる。ＲＬの縄文を地文とし，頸部付近に３本の沈線を廻らす。内面は粗い磨き。	頸部～胴部上半	焼成やや良好。暗褐色。胎土は粗く，２～３㎜大の小石を多く含む。	連弧文系土器。
第 48 図 18 第 56 図 7	JF19	深鉢	Ⅲ b 層	— (3.0) —	欠損部が多く，全容不明。	粗い条線を地文とし，２本の沈線を廻らせ，２本一組の沈線による弧線文を施す。内面調整は行われていない。	胴部	焼成やや良好。外面は暗茶褐色。内面は茶褐色。胎土は緻密。	連弧文上器。
第 48 図 19 第 56 図 8	JF12	深鉢	Ⅲ b 層	— (4.6) —	円筒形。	条線を地文とし，３本の沈線による弧線文を施す。内面調整は行われていない。	胴部	焼成やや良好。外面黄橙色。内面赤褐色。胎土は粗く，１～２㎜大の砂粒を多量に含む。	連弧文上器。
第 48 図 20 第 56 図 9	JF13	深鉢	Ⅲ b 層	— (5.5) —	欠損部が多く，全容不明。	櫛描状の条線を地文とし，「Ｓ」字状の沈線を施す。内面調整は行われていない。	胴部	焼成はやや良好。暗褐色。胎土は緻密。白色砂粒を少量含む。	連弧文上器。
第 48 図 21 第 56 図 10	JF16	深鉢	Ⅲ b 層	— (4.1) —	欠損部が多く，全容不明。やや膨らむ胴部。	ＲＬの縄文と地文とし，１本の沈線による弧線文を施す。内面は炭素吸着により黒色で，研磨されている。	胴部	焼成不良。暗赤褐色。胎土は粗く，２～３大㎜の砂粒を少量含む。	連弧文系土器。

第 48 図 22 第 56 図 11	JF17	深鉢	Ⅲｂ層	— (4.3) —	欠損部が多く，全容不明。	柳描状の条線を地文とし，３本の沈線による弧線文を施す。内面は丁寧な磨き。	胴部	焼成良好。暗灰色。胎土はやや粗く，3㎜大の小石を少量含む。	連弧文上器。
第 49 図 1 第 56 図 12	JF25	深鉢	Ⅲｂ層	— (6.0) —	折り返し口縁。	口縁部から胴部にかけて棒状工具による重弧文の沈線を施す。内面は比較的丁寧なナデ。	口縁部～胴部	焼成良好。黄橙色。胎土は緻密。	曽利系
第 49 図 2 第 56 図 13	JF26	深鉢	Ⅲｂ層	— (2.8) —	折り返し口縁。	口縁部に棒状工具による重弧文の沈線を施す。	口縁部	焼成良好。黄橙色。胎土は緻密。	曽利系
第 49 図 3 第 56 図 14	JF27	深鉢	Ⅲｂ層	— (4.6) —	欠損部が多く，全容不明。	細い隆帯を波状に貼り付ける。隆帯の上は無文，下方は横位のＲＬ縄文を施文する。内面調整は行われていない。	頸部	焼成やや良好。赤褐色。胎土は粗く，砂粒を多量に含む。	曽利Ⅱ式
第 49 図 4 第 57 図 1	JF28	深鉢	Ⅲｂ層	— (4.9) —	欠損部が多く，全容不明。	細い隆帯を貼り付け，その上を刻目状につぶす。沈線下に棒状工具による縦方向の沈線を施す。内面調整は行われていない。	胴部	焼成やや良好。赤褐色。胎土は粗く，２～３㎜大の小石を多く含む。	曽利系
第 49 図 5 第 57 図 2	JF30	深鉢	Ⅲｂ層	— (7.5) —	大型。頸部で括れ，胴部上半でやや膨らむ。	条線を地文とした上に，貼付隆帯による渦巻状の意匠文を表出する。内面は丁寧な磨き。	頸部	焼成良好。暗茶褐色。２～３㎜大の小石を多く含む。	曽利Ⅱ式
第 49 図 6 第 57 図 3	JF33	深鉢	Ⅲｂ層	— (2.6) —	欠損部が多く，全容不明。	口唇部を肥厚させ，僅かに内側に張り出す。口唇部下に沈線による楕円区画を施す。内面調整は行われていない。	口縁部	焼成やや良好。赤褐色。胎土はやや粗く，白色砂粒を多く含む。	加曽利Ｅ３式
第 49 図 7 第 57 図 4	JF34	深鉢	Ⅲｂ層	— (2.7) —	欠損部が多く，全容不明。	口唇部を肥厚させる。口唇部下に指頭による圧痕が施される。内面調整は行われていない。	口縁部	焼成やや良好。黄橙色。胎土は緻密。	加曽利Ｅ３式
第 49 図 8 第 57 図 5	DE01	土製円板	Ⅲｂ層	径 3.5㎝ 厚 1.3㎝ 重 15.5g		沈線と押引き文。	完形	黄橙色。全周よく磨耗する。	
第 49 図 9 第 57 図 6	DE02	土製円板	Ⅲｂ層	径 2.6㎝ 厚 1.0㎝ 重 8.8g		撚糸文。	完形	赤褐色。全周よく磨耗する。	

第 10 表　K２－89 遺物観察表（石器）

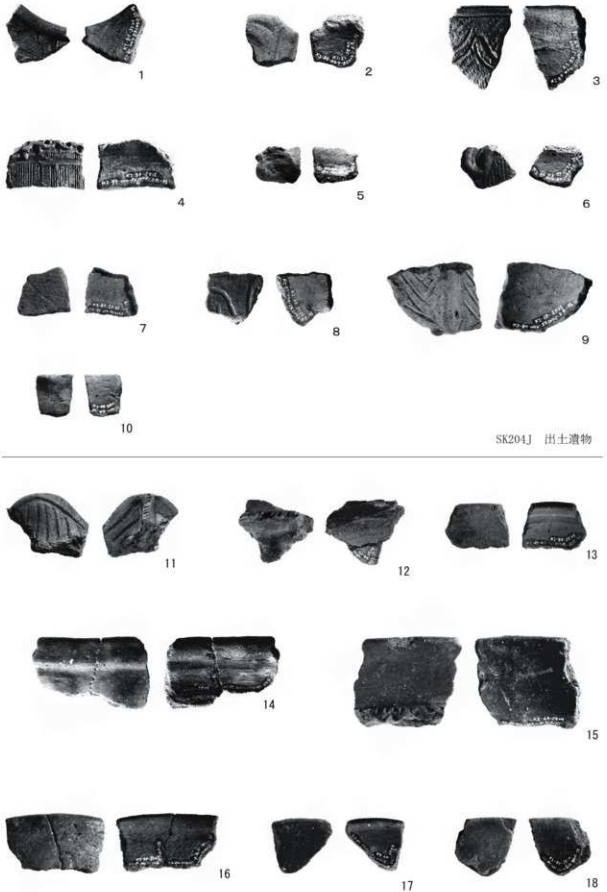
図面 図版	遺物 番号	種別 細分類	出土 位置	最大 長 (cm)	最大 幅 (cm)	最大 厚 (cm)	重量 (g)	残存量 残存状態	石材	備考
第 49 図 10 第 57 図 7	AG01	打製 石斧	SK204J 上層	12.1	5.9	1.7	175.7	ほぼ完形	砂岩	短冊形。両刃であるが，裏面刃部は欠損している。部分的に被熱している。表面に自然面を残す。
第 49 図 11 第 57 図 8	AG02	打製 石斧	Ⅲｂ層	11.5	4.2	1.6	96.8	完形	ホルンフェルス	右側縁を抉り，左右非対称。片刃。表面に自然面を残す。
第 49 図 12 第 57 図 10	AG03	打製 石斧	Ⅲｂ層	11.8	3.9	1.6	99.7	ほぼ完形	グリーンタフ	片刃でほぼ完形。両面調整で自然面を除去している。
第 49 図 13 第 57 図 9	AG04	打製 石斧	Ⅲｂ層	13.9	4.2	1.8	125.9	ほぼ完形	砂岩	両刃の表面刃部を一部欠損する。基部厚をやや薄く仕上げている。表面に自然面を残す。
第 49 図 14 第 57 図 11	AG05	打製 石斧	Ⅲｂ層	14.2	5.5	1.5	135.1	ほぼ完形	砂岩	片刃で基部端を一部欠損する。表面に自然面を残す。
第 49 図 15 第 57 図 12	AH01	磨製 石斧	Ⅲｂ層	6.2	4.0	3.2	102.6	刃部欠損	砂岩	基部のみ残存。断面は楕円形を呈す。部分的に被熱している。基部端々に剥離痕を残す。

第 50 図　調査区全景（東から）

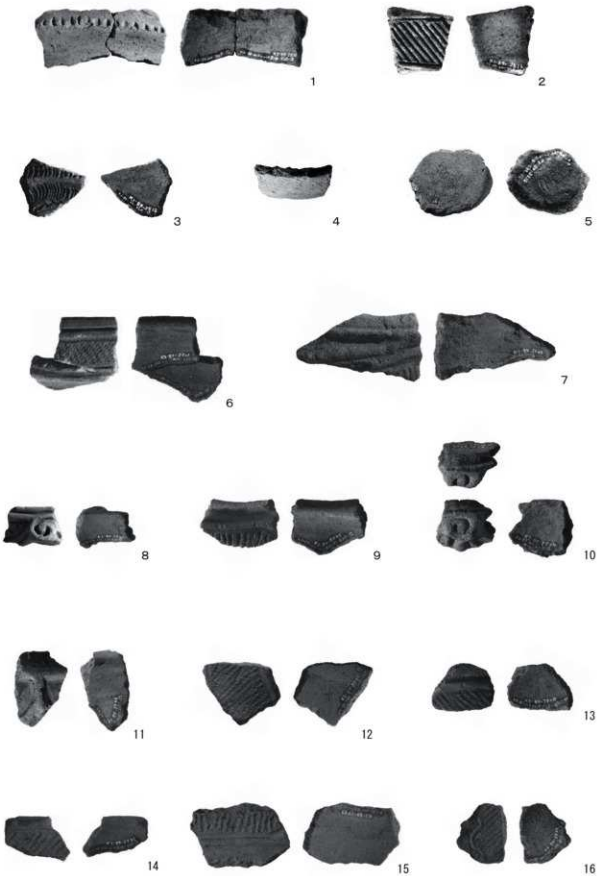
第 51 図　調査区北壁断面（南から）

第 52 図　SK204J 完掘状況（南から）

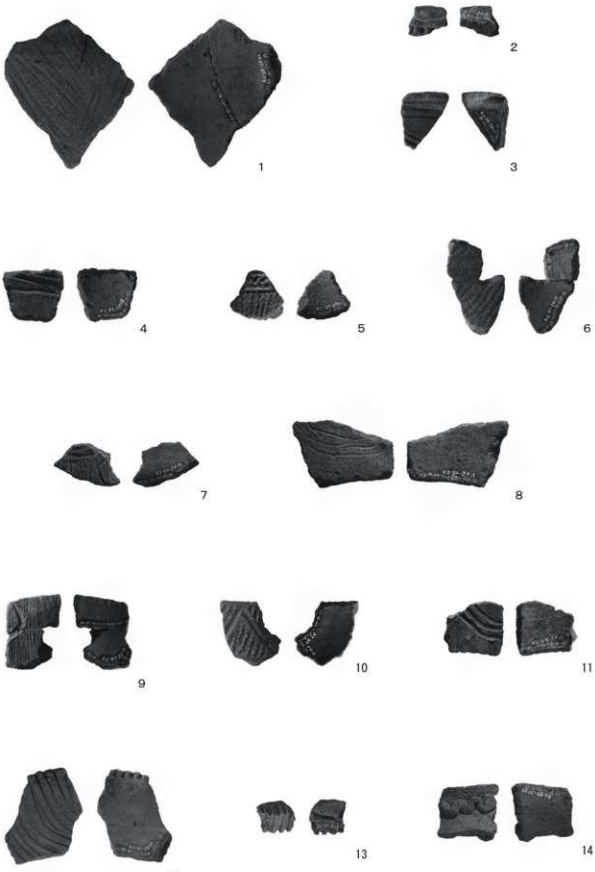
第 53 図　SK204J 遺構断面（北から）



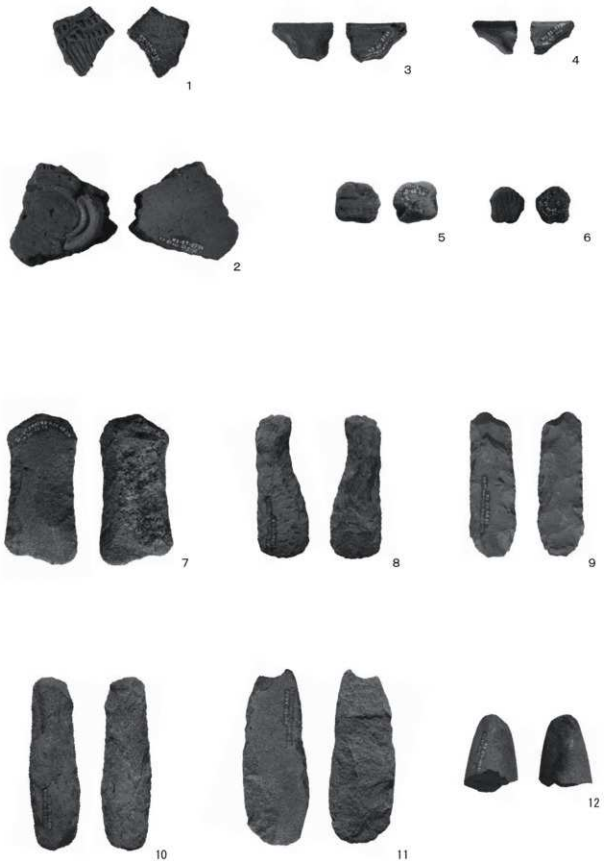
第 54 図　出土遺物写真１



第 55 図　出土遺物写真 2



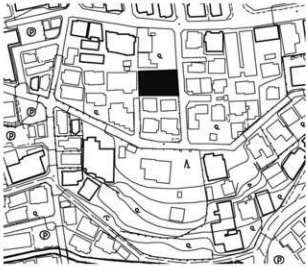
第 56 図　出土遺物写真３



第 57 図　出土遺物写真 4

（５）花沢東遺跡第 13 次

所在地	国分寺市南町３－2681－14		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成 24 年２月６日～３月６日		
調査面積	64.08 ㎡	遺物箱数	２箱
検出遺構	PJ-1～PJ-3・ST19・SR25		
主な遺物	石器・礫		
調査員	小野本・上敷領		



第 58 図　K 54－13 調査地位置図

調査地は，花沢東遺跡（№54）に該当する。花沢東遺跡は，国分寺崖線の両側を谷に区切られ舌状に突き出した先端部の武蔵野段丘面に位置する。この舌状に突き出した先端部はいくつかの小さなノッチが入りくみ，そこには湧水点が確認されている。遺跡範囲はこの舌状台地の東側にある都立殿ヶ谷戸庭園内を中心に西へと広がっている。隣接する武蔵野段丘面の遺跡には北に本町（国分寺村石器時代）遺跡，東に殿ヶ谷戸遺跡，西に多喜窪遺跡Ｄ地点がある。南の崖線下には立川段丘面に八幡前遺跡があり，野川源流域における旧石器時代から縄文時代までの遺跡が密集する地域である。

昭和 56 年の都営住宅建設に伴う調査（第１調査地点）は，本調査地の北東側で崖線際からやや離れた比較的平坦な台地上に位置する。5,663 ㎡が調査され，Ⅳ層（立川ローム第Ⅲ層）から第Ⅹ層までのあいだに７枚の文化層が確認された。特にⅤ層（立川ローム第Ⅳ層）下部からⅥ層（立川ローム第Ⅴ層）上部にかけて分布する第３・４文化層において石器集中地点９箇所，礫群 10 箇所が検出され，黒曜石とチャートを主要石材とするナイフ形石器，角錐状石器，スクレイパー，彫器，石器等多様な石器群が出土し野川源流域における最も人類活動が盛んな時期を明らかにした。また，第７文化層（立川ローム第Ⅹ層）からは局部磨製石斧が出土し，後期旧石器時代末の標式遺跡として知られるようになった。平成６年度第５次調査は，第１調査地点の南側に隣接する地点に位置する。39 ㎡が調査され，Ⅳ層中から礫群１箇所が検出され，チャートを石材とする槍先形尖頭器１点が出土した。第６次調査は本調査地の南側で崖線際の傾斜面に位置する。39 ㎡が調査され，Ⅳ層下部からチャートを主要石材とした石器集中地点１箇所と，石錐１点と石核２点が検出された。平成 12 年度第７次調査は本調査地の西側で，崖線際に近い傾斜面に位置する。341 ㎡が調査され，Ⅳ層下部から石器集中地点１箇所，礫群６箇所が検出された。ナイフ形石器，彫器，石核，台石，敲石等が出土した。以上のように花沢東遺跡はⅣ層下部からⅤ層上部に遺構・遺物が集中することが知られていた。

本調査地は遺跡中心より外れた南側に当たり，崖線際からやや離れた比較的平坦な台地上に位置する。調査は３×３ｍのトレンチを４箇所設定し，遺構・遺物の検出状況に応じて拡張やローム層の掘削を行うものとした。縄文時代の遺構は第Ⅲ層上面でＡ・Ｃ・Ｄトレンチよりピットを１基ずつ検出したが，遺物は出土しなかった。旧石器時代の調査は，Ａ・Ｂ・Ｃトレンチにおいてローム層の調査を行った。その結果Ａトレンチにおいて，Ⅳ層上面より石器及び礫が出土し始めた。遺物の出土状況から分布の範囲がトレンチの北西側に広がることが予測された

ことから，事業者の了解を得てトレンチの北西を約4.7㎡拡張した。遺物はⅤa層の下位（立川ローム第Ⅳ層下部）に集中し，礫群と石器集中地点を1箇所ずつ検出した。礫群は東西約0.9m，南北約0.5mの範囲に礫が集中し，いずれもよく被熱している。石器集中地点は東西約1.8m，南北約2mの範囲を測る。その位置関係は，石器集中地点の南東側に礫群がほぼ同一面上で，石器が北西方向に向かって広がるように見える。実際の規模はもう少し西側の隣地境界を越えて広がるものと推測される。なお，BトレンチはⅤa層の下位まで，CトレンチはⅩ層（立川ローム第Ⅹ層）まで掘削したが，遺構・遺物共に検出されなかった。

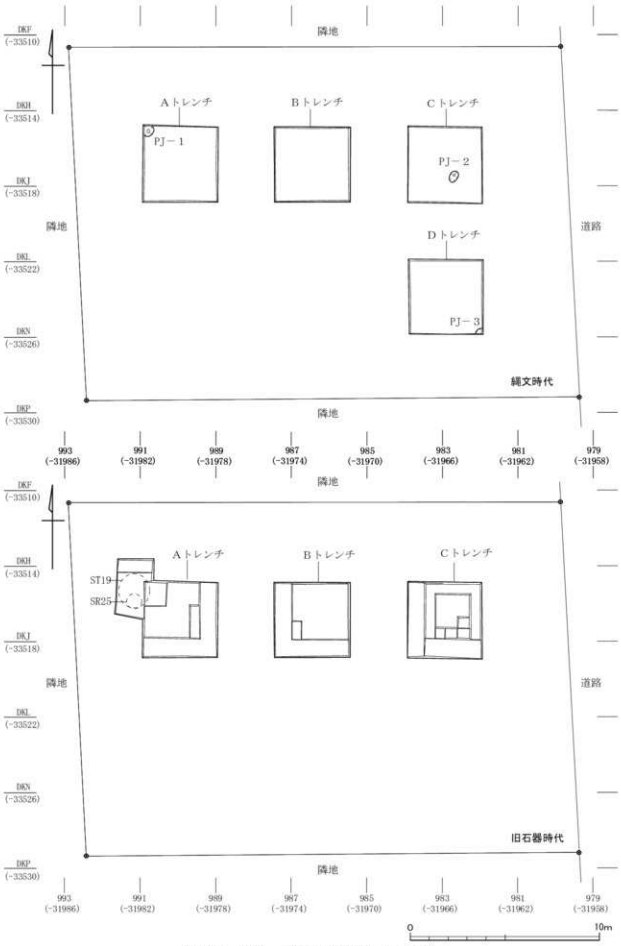
出土した遺物の総点数は123点である。その内石器は94点，礫は29点である。石器はナイフ形石器が1点（第71図4），石核が3点（第71図1～3），調整痕の見られる剥片が1点（第71図5）あり，その他は縦長剥片と不定形な剥片である。ナイフ形石器は黒色頁岩を石材としており，丁寧な二側縁加工を施した細身の茂呂型である。縦長剥片に分類したが第71図5は打面を除去し，両側縁に微調整を施して尖頭状に仕上げており，調整剥片とも考えられる。

接合状況はチャートを石材とした石核を中心に縦長剥片が14点接合した（第71図1）。剥片剥離の状況は，上端を小口側から剥離し打面を整形した後，長さ5～6㎝，幅1㎝，厚さ0.5㎝程度のやや分厚い縦長剥片を連続して剥離する。ある程度剥離が進んだ後打面を転移し，下端に打面調整を加え，同様に縦長剥片を剥離する。接合によって復元された原石の形状は角礫を呈する。その他の石核と剥片の接合例はチャートを石材とした隅丸方形のやや薄い石核の上端に不定形の剥片が接合し（第71図2），復元された原石の形状は楕円礫を呈すると考えられる。自然面を持つ黒色頁岩を石材とした縦長の石核の上端に不定形の剥片が接合し（第71図3），復元された原石の形状は角礫を呈すると考えられる。

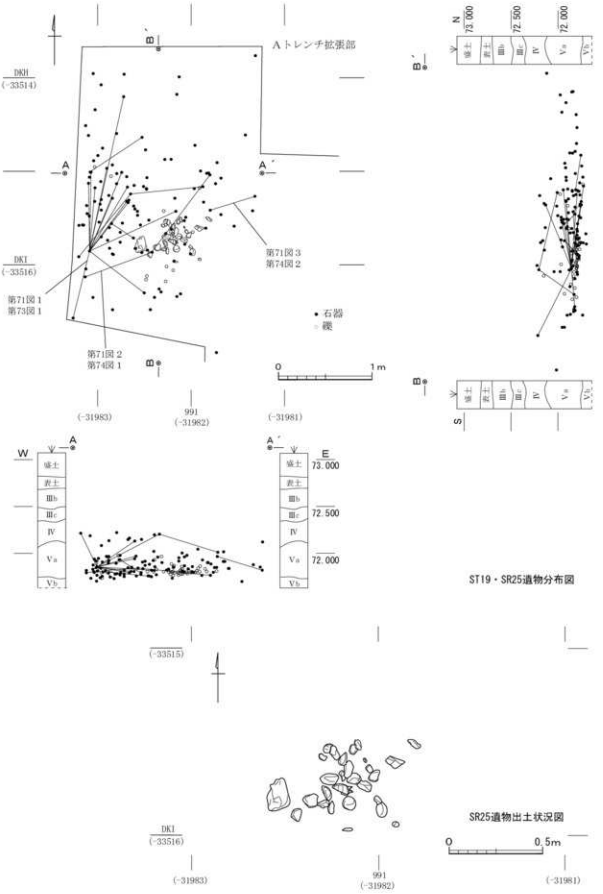
剥片の形態を観察すると，接合した縦長剥片のように狭長でやや分厚い剥片（第71図1）と，不定形でやや横長の剥片（第71図6・第72図1・3・4）と，やや寸詰まりの縦長剥片（第72図2・5～7），先端部が尖頭状の剥片（第72図8）がある。母岩別分類は，この3点（第71図1～3）の接合状況から，当該石器集中地点には少なくともチャート2個体と黒色頁岩1個体の母岩を持つ石器製作の痕跡を認めることができる。

調査面積の問題から単純な比較はできないが，第1調査地点の調査では角錐状石器や彫器等の多様な石器が出土していたのに対し，石器集中地点の規模や剥片の数に比してナイフ形石器等の典型的な製品が少ないことも特徴的である。今次調査区で製作された製品は遺跡外に持ちだされたものと考えられよう。

野川源流域における旧石器時代遺跡のあり方は，国分寺崖線の上面際である武蔵野段丘面及び崖線を深く切り込んだ谷の縁辺部に数多く立地しており，さらに湧水点の分布にも制約を受けていると考えられている。そうした地理的背景の中で花沢東遺跡は，多摩蘭坂遺跡とともに複数の層位にまたがって文化層が重なる重層遺跡として知られてきた。今次調査においては開発計画の状況から調査地点全てをⅩ層まで調査するには至らず，Aトレンチの下層の状況は明らかではない。しかしながら，B・Cトレンチからは1点の礫，石器も出土しなかったことから見ると当該地区の西側に更なる石器集中地点が広がることが推測されよう。今次調査で検出された石器製作跡と考えられる遺構群と出土石器は，従来から言われてきた花沢東遺跡の中心的な文化層がⅤ層（立川ローム第Ⅳ層）中にあることに，新たな資料を追加したことになった。



第 59 図　K 54 － 13 調査区平面図（1／200）



ST19・SR25遺物分布図

第60図　遺物出土状況図（1／40，1／20）

第 61 図　Ａトレンチ全景（南から）

第 62 図　Ｂトレンチ全景（西から）

第 63 図　Ｃトレンチ全景（南から）

第64図　調査前風景Ａ・Ｂ・Ｃトレンチ（東から）

第65図　調査前風景Ｃ・Ｄトレンチ（北から）

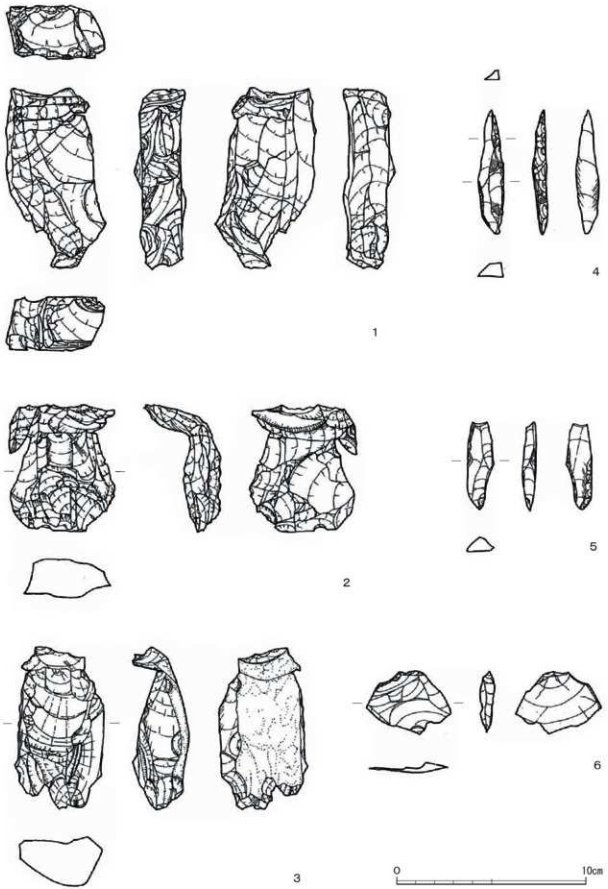
第66図　Ａトレンチ石器出土状況（南東から）

第68図 Ａトレンチ拡張部全景（東から）

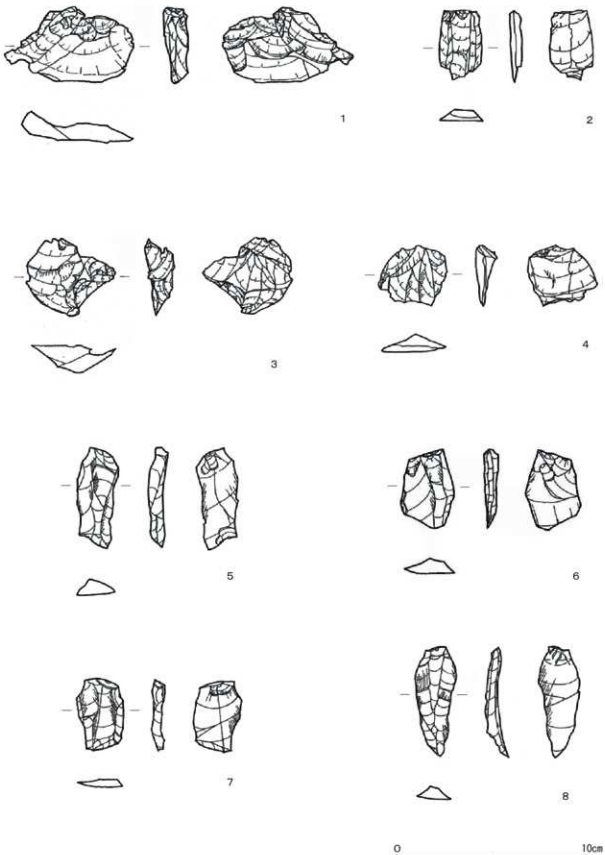
第67図 Ａトレンチ石器出土状況（東から）

第69図　Ａトレンチ拡張部礫群出土状況（東から）

第70図　Ａトレンチ拡張部礫群出土状況（北から）



第 71 図　出土遺物実測図１（１／２）

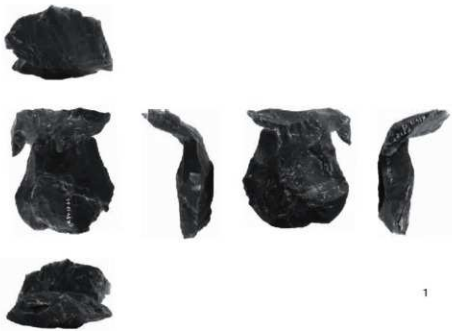


第72図　出土遺物実測図２（１／２）

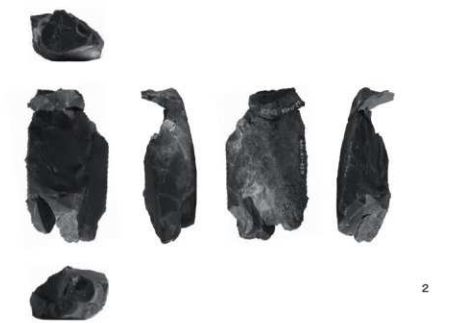
第 11 表　K 54 － 13 遺物観察表（石器）

図面 図版	遺物 番号	種別 細分類	出土 位置	最大 長 (cm)	最大 幅 (cm)	最大 厚 (cm)	重量 (g)	残存 状態	石材	備考
第 71 図 1 第 73 図 1	FJ01	石核	Ⅴa 層 ST19	9.6	5.2	2.8	145.1	—	チャート	石核を中心に縦長剥片・不定形剥片が 14 点接合。
第 71 図 2 第 74 図 1	FJ02	石核	Ⅴa 層 ST19	6.8	5.5	2.0	90.6	—	チャート	不定形剥片と石核の２点が接合。
第 71 図 3 第 74 図 2	FJ03	石核	Ⅴa 層 ST19	8.5	4.7	3.0	112.8	—	チャート	自然面を残す石核と剥片の２点が接合。
第 71 図 4 第 73 図 2	FA01	ナイフ 形石器	Ⅴa 層 ST19	6.6	0.8	1.3	6.0	完形	黒色頁岩	二側縁加工の茂呂型。 FJ03 と同一母岩か。
第 71 図 5 第 75 図 1	FL01	縦長 剥片	Ⅴa 層 ST19	4.5	1.4	0.8	4.9	完形	チャート	打面を除去し，両側縁に微調整を加え，尖頭状に仕上げる。 FJ01 と同一母岩か。
第 71 図 6 第 75 図 2	FL02	不定形 剥片	Ⅴa 層 ST19	3.3	4.4	0.8	8.3	完形	チャート	横長の不定形剥片。打面は点打面。FJ01 と同一母岩か。
第 72 図 1 第 75 図 3	FL03	剥片	Ⅴa 層 ST19	4.0	6.8	1.7	26.6	—	チャート	不定形剥片と縦長剥片の２点が接合。FJ02 と同一母岩か。
第 72 図 2 第 75 図 4	FL05	剥片	Ⅴa 層 ST19	4.8	2.3	0.6	5.7	—	チャート	縦長剥片２点が接合する。連続して縦長剥片が剥離される。 FJ02 と同一母岩か。
第 72 図 3 第 75 図 5	FL04	剥片	Ⅴa 層 ST19	4.2	4.7	1.6	20.0	—	チャート	不定形剥片３点が接合する。 FJ02 と同一母岩か。
第 72 図 4 第 75 図 6	FL06	剥片	Ⅴa 層 ST19	3.2	3.5	1.2	8.3	—	チャート	巾広の横長剥片２点が接合。 FJ02 と同一母岩か。
第 72 図 5 第 75 図 7	FL07	剥片	Ⅴa 層 ST19	5.4	2.2	1.0	10.6	完形	チャート	打面単剥離の縦長剥片。 FJ02 と同一母岩か。
第 72 図 6 第 75 図 8	FL08	縦長 剥片	Ⅴa 層 ST19	4.2	2.9	0.8	9.4	完形	チャート	打面単剥離の寸詰まりの縦長剥片。FJ02 と同一母岩か。
第 72 図 7 第 75 図 9	FL09	縦長 剥片	Ⅴa 層 ST19	3.7	2.5	0.6	6.9	完形	チャート	打面単剥離のやや巾広で寸詰まりの縦長剥片。 FJ02 と同一母岩か。
第 72 図 8 第 75 図 10	FL10	縦長 剥片	Ⅴa 層 ST19	5.8	2.2	0.8	8.9	完形	チャート	縦長剥片。先端部が尖る。

第 73 図　出土遺物写真１

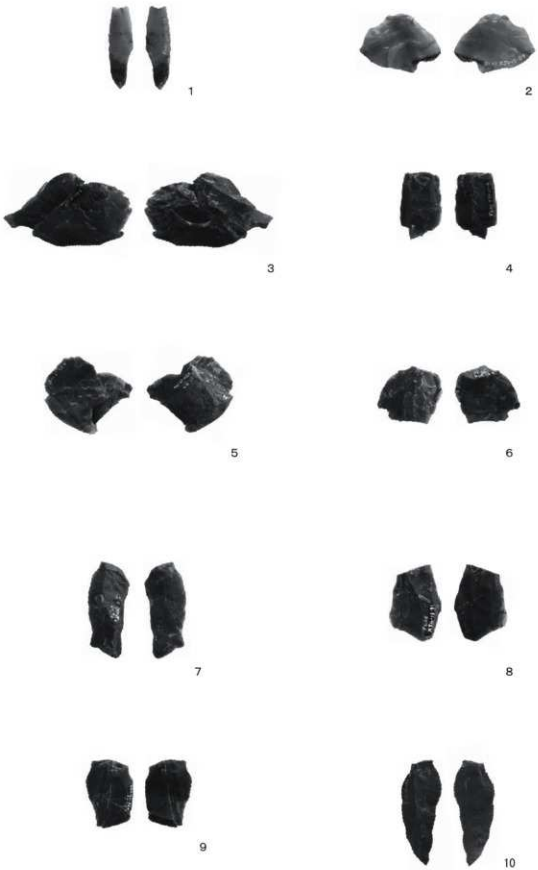


1



2

第 74 図　出土遺物写真 2

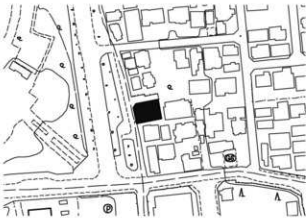


第 75 図　出土遺物写真３

第２節　確認調査

（1）武蔵国分寺跡第 670 次

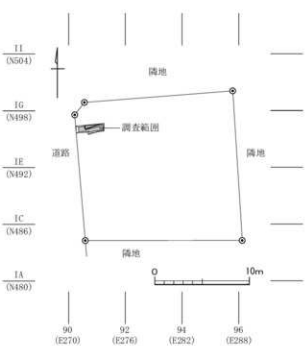
所在地	国分寺市泉町１－８－８		
調査原因	集合住宅建設		
調査期間	平成 23 年５月９日		
調査面積	2.45 ㎡	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
調査員	小野本		



第 76 図　ＭＫＩ－670 調査地位置図

調査地は，武蔵国分寺跡（№ 19）に該当する。周辺の調査状況からは，遺構の密集度はやや低いと予想されたが，当該地は，旧石器・縄文・奈良・平安時代にあたる複数の遺構や遺物が存在する可能性があるため，給排水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として確認調査を行った。

調査区内はほぼ既設の下水管埋設時の埋め土の範囲にかかっており，掘削底面まで盛土に覆われており，遺構は検出されなかった。また，遺物も出土しなかった。

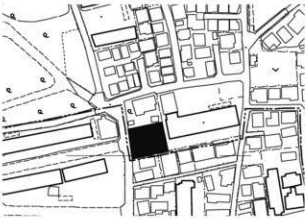


第 77 図　ＭＫＩ－670 調査区全体図（1 ／ 400）

第 78 図　調査区全景（東から）

（２）武蔵国分寺跡第 671 次

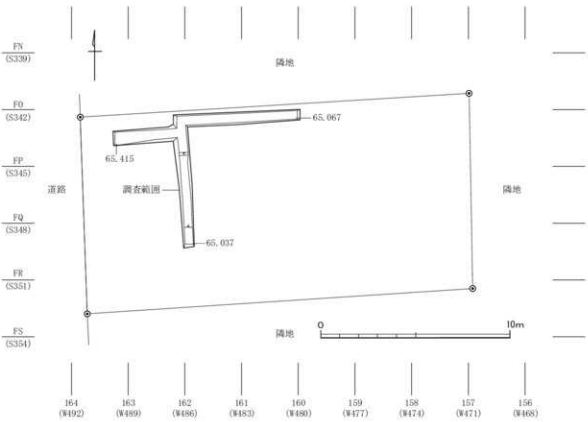
所在地	国分寺市西元町４－６－６		
調査原因	集合住宅建設		
調査期間	平成 23 年６月 23 日～６月 24 日		
調査面積	7.80 ㎡	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
調査員	小野本		



第 79 図　ＭＫⅢ－ 671 調査地位置図

調査地は，武蔵国分寺跡（№ 19）に該当する。市域の南西隅にあたり，南と西は府中市に隣接している。当該地は，武蔵国分寺跡（尼寺）の伽藍地南西区画溝から約 50 m南西に位置しており，さらに伝鎌倉街道から約 50 m西にあたり，周辺では中世の遺構・遺物が発見されている。

調査地に隣接する東側では，都営住宅西元町団地建設に伴って本調査が行われており（第 401 次調査），推定鎌倉街道の礫敷面のほか，古代の竪穴建物 15 棟や溝８条など，遺構・遺物ともに多数確認されている。また縄文時代は落とし穴や土坑が見られた（国分寺市遺跡調査会 1999『武蔵国分寺跡発掘調査概報ＸＸⅢ』）。さらに，調査地の北約 30 mに位置する場所では，



第 80 図　ＭＫⅢ－ 671 調査地全体図（1 ／ 200）

1991年・1993年に相次いで調査が行われ（第363・384次調査），未報告で詳細は不明であるが，9世紀後半から10世紀前半代に位置づけられている竪穴建物14棟や土坑など，また縄文時代の遺構が確認されている。この第363次の南面道路で，調査地の北約20mの東西道路では公共下水道整備に伴って，尼寺西・南方地区の調査を42か所で行っている（国分寺市遺跡調査会1996『(同) ＸＸＩ』)。この調査では，古代の竪穴建物や溝，土坑などが小規模面積ながら多数確認された。

また，調査地の南側の府中市域は国府国分寺中間地域にあたり，都市計画道路建設に伴う調査によって8世紀後半から9世紀初頭の集落跡や粘土採掘跡，古代や中世の土坑，道路遺構が検出されている。

このように，既往調査を概観すると，古代の中でも9世紀後半が主体の時期となること，また，予定掘削深度が古代・中世の遺物包含層であるⅡ層内におさまることが想定されたことから，給排水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として確認調査を行った。その結果，現地表面から約70cm掘り下げたところでⅡ層を確認したが，遺構は検出されなかった。遺物は，磨滅の激しい古代の瓦が1点出土した。なお，縄文土器の出土は見られなかったが，既往調査から当該地にも縄文時代の遺構が遺存する可能性はあると考えられる。

第81図　調査地全景（東から）

第82図　調査区土層断面（南から）

第83図　調査区北部（西から）

第84図　調査区西部（西から）

第85図　調査区南部（北から）

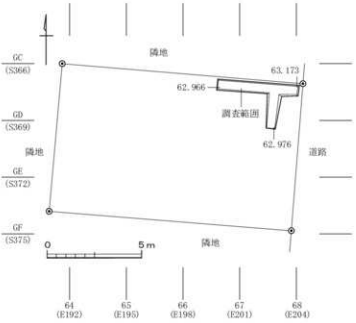
（３）武蔵国分寺跡第 674 次

所在地	国分寺市西元町３－1897－８・９・10		
調査原因	分譲住宅建設		
調査期間	平成 24 年１月 30 日		
調査面積	2.81 ㎡	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
調査員	小野本		

第 86 図　ＭＫⅡ－674 調査地位置図

調査地は，武蔵国分寺跡（僧寺）の寺院地南辺区画溝から約 50 ｍ南に位置し，調査地の西は府中市に隣接する。

当該地は，旧石器・縄文・奈良・平安時代等の遺構・遺物が存在する可能性があるため，給排水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として確認調査を行った。その結果，現地表面から約 60 ㎝下でⅢｂ層を確認したが，調査区内には遺構は存在せず，遺物も出土しなかった。



第 87 図　ＭＫⅡ－674 調査地全体図（1／200）

第 88 図　調査区全景（東から）

第 89 図　調査区南部（北から）

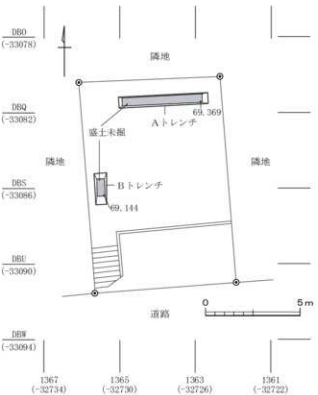
（4）恋ヶ窪遺跡第90次

所在地	国分寺市西恋ヶ窪１－1282－28		
調査原因	分譲住宅建設		
調査期間	平成23年９月５日～９月６日		
調査面積	3.77㎡	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
調査員	寺前		

調査地は，恋ヶ窪遺跡（№２）に該当する。当該地は南に向かう急な斜面（国分寺崖線）上に位置し，旧石器・縄文時代の遺構が遺存する可能性があったため，建物基礎によって遺構に影響が及ぶ範囲の一部を対象として，確認調査を行った。

現況はひな壇状に造成され，前面道路とも高低差が約1.5ｍ認められた。このうち，ひな壇の上段面を調査対象地としたが，南傾斜地のため南側は盛土が厚いと想定し，敷地の北に調査区を設定した。その結果，最深で1.1ｍまで掘削したが，すべて盛土内におさまっていたことが確認された。ただし，自然堆積層までは掘削が及ばなかったため，盛土下に遺構面が遺存する可能性がある。遺物の出土はなかった。

第90図　Ｋ２－90調査地位置図



第91図　Ｋ２－90調査地全体図（1／200）

第92図　Ａトレンチ完掘状況（南西から）

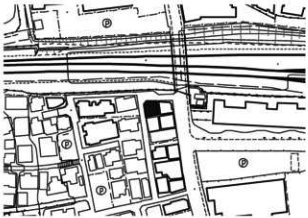
第93図　Ｂトレンチ完掘状況（北東から）

（５）花沢西遺跡第 22 次

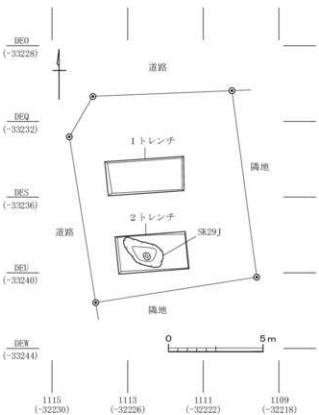
所在地	国分寺市南町３－28－12		
調査原因	集合住宅建設		
調査期間	平成 24 年２月１日～２月９日		
調査面積	12.60 ㎡	遺物箱数	１箱
検出遺構	ＳＫ 29 Ｊ		
主な遺物	縄文土器		
調査員	小野木・上敷領		

調査地は，花沢西遺跡（№８）に該当する。花沢西遺跡（№８）は武蔵野段丘の本多面に位置しており，ＪＲ国分寺駅の西側一帯に展開する。遺跡範囲はＪＲ中央線によって南北に分断され，調査地は線路南側の東寄りに位置する。調査地北西には羽根沢遺跡にある日立中央研究所があり，その敷地内から流れ出る湧水は野川へと流れる。第 18 次調査では，後期旧石器時代の石器が多数出土している。北に位置する恋ヶ窪東遺跡からは，縄文時代中期後半から後期初頭にかけての集落が確認されている。花沢西遺跡は縄文時代中期が中心であるが，さんや谷を挟んで向かいの恋ヶ窪遺跡や羽根沢遺跡，北側の恋ヶ窪東遺跡に比べ遺構の分布密度は低い。

これまで 21 次にわたって調査が行われ，その大部分が未報告であるが，旧石器時代は礫群や石器集中部，縄文時代は中期を中心に竪穴住居や集石遺構などが確認されている（国分寺市遺跡調査会 2007『花沢西遺跡発掘調査概報Ⅰ』）。



第 94 図　Ｋ８－22 調査地位置図



第 95 図　Ｋ８－22 調査地全体図（1／200）

第 96 図　Ｋ８－22 調査区
土層柱状図

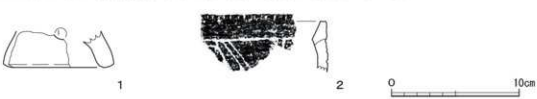
1　黒褐色10YR2/2　赤色スコリア・ローム細粒を極微量含む。Ⅲb層に類似。しまり強い。粘性有り。
2　暗褐色7.5YR3/3　1層にⅢc層を４～５割混じる。しまりやや有り。粘性有り。
3　暗褐色7.5YR3/4　1層にⅢc層を７～８割混じる。しまり弱い。粘性有り。

第 97 図　SK29J 北壁土層断面図（１／40）

第98図 調査地全景（北から）

第99図 №2トレンチ完掘状況（北西から）

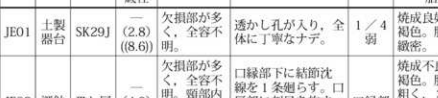
このように調査地は，集落の周縁部の様相を示しているものの旧石器・縄文時代の遺構・遺物が遺存する可能性があるため，建物基礎によって遺構に影響が及ぶ範囲の一部を対象として確認調査を行った。その結果，現地表面から約80cｍ下のⅢｃ層上面で遺構の確認を行い，№2トレンチで土坑1基（SK29J）を検出した。SK29Jは長軸2.3ｍの不整楕円形で，倒木等による自然のくぼみの可能性もある。この土坑内からは縄文時代中期中葉の勝坂式期の土製器台が，Ⅲｂ層からは中期前葉の阿玉台式期の深鉢が出土している。



第100図 出土遺物実測図（1／3）

第12表 K8－22遺物観察表（土器

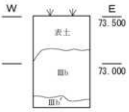
図面 図版	遺物 番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成形・整形の特徴	残存量	焼成 色調 胎土	備考
第100図1 第101図1	JE01	土製 器台	SK29J	— (2.8) ((8.6))	欠損部が多く，全容不明。	透かし孔が入り，全体に丁寧なナデ。	1／4 弱	焼成良好。赤褐色。胎土は緻密。	勝坂式期
第100図2 第101図2	JE02	深鉢	Ⅲｂ層	— (4.0) —	欠損部が多く，全容不明。頸部内面が「く」の字状に外反する。	口縁部下に結節沈線を1条廻らす。口唇部に刻目を施す。胴部にかけて，斜位の結節沈線を施す。	口縁部	焼成不良。茶褐色。胎土は粗く，2㎜大の小石と金雲母を多量に含む。	阿玉台式期



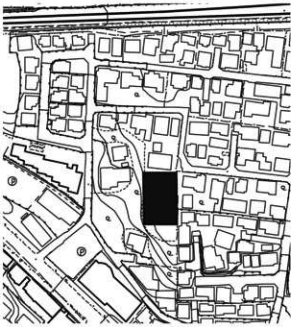
第101図 出土遺物写真

（６）殿ヶ谷戸北遺跡第３次

所在地	国分寺市南町１-309- １の一部外		
調査原因	宅地造成		
調査期間	平成 24 年２月 13 日～２月 20 日		
調査面積	19. 84 ㎡	遺物箱数	１箱
検出遺構	なし		
主な遺物	縄文土器・石器		
調査員	上敷領		



第 103 図　Ｋ 20 － 3
調査区土層柱状図



第 102 図　Ｋ 20 － 3 調査地位置図

調査地は，殿ヶ谷戸北遺跡（№. 20 遺跡）に該当する。殿ヶ谷戸北遺跡は，№. 29 遺跡と東京経済大学構内遺跡（№. 53）に隣接し，本多谷をはさみ殿ヶ谷戸遺跡の北段丘面に立地する。これまでに２次にわたる調査が行われている。

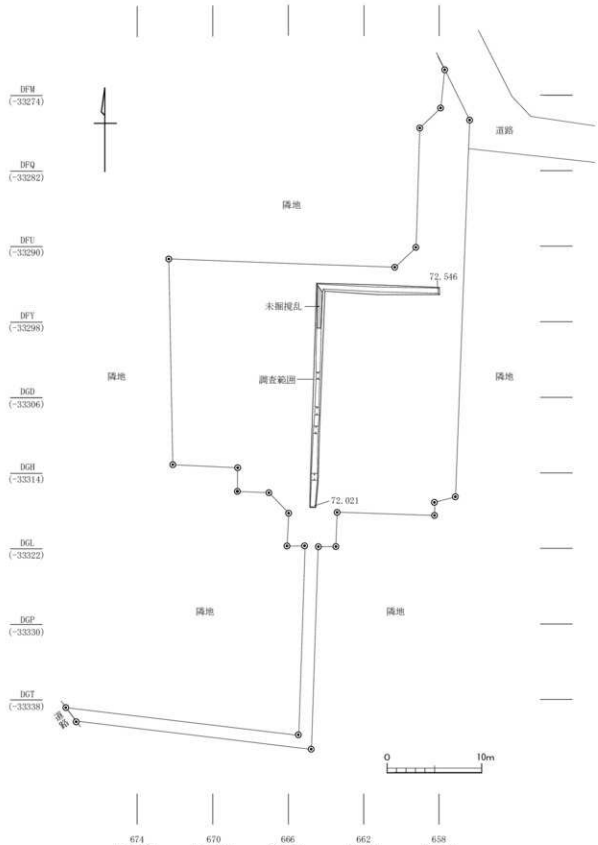
第１次調査は，民間開発に伴う本発掘調査で未報告であるが，調査地の南東約 50 ｍに位置し，旧石器時代の礫群，縄文時代の集石遺構が確認されている。第２次調査は平成 18 年に行われたもので，調査地の北約 50 ｍに位置する。この調査では約 35 ㎡を発掘し，旧石器（チャートの縦長剥片）を１点確認している（『平成 20 年度埋蔵文化財調査年報』）。

本遺跡では，これまでに縄文時代の目立った出土はないが，国分寺崖線上下を取り込む，東西にわたる遺跡を見渡すと縄文時代の集石や土坑，竪穴建物等

第 104 図　調査区全景（西から）

第 105 図　遺物出土状況１（西から）

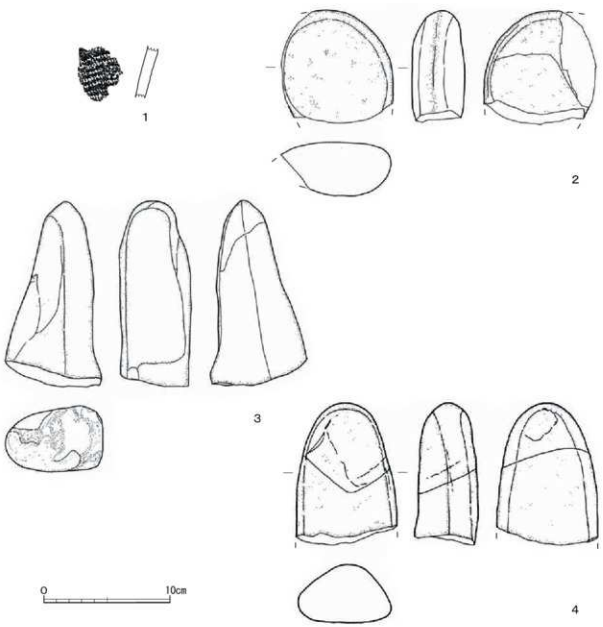
第 106 図　遺物出土状況２（西から）



第 107 図　K 20 － 3 調査地全体図（1 ／ 400）

が検出されていることから，位置指定道路下に埋設される給排水管によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象に確認調査を行った。

調査地の南端は国分寺崖線による急な斜面となり，調査地のほとんどはこれに続く緩やかな斜面上である。埋設による掘削であるため，この傾斜にかかわらず，深さ約１m下まで調査を行った。その結果，地表面から一番浅いところで深さ約 40 ㎝，平均すると深さ約 60 ㎝下まで表土・盛土に覆われていたことから，その下の暗茶褐色土（Ⅲｃ層），黄褐色土（Ⅳ層）において，縄文時代の遺構確認を行った。その結果，遺構は検出されなかったが，Ⅲｂ層より縄文時代早期と想定される土器片２点と磨石３点が出土した。出土した遺物は少量であったが，殿ヶ谷戸北遺跡の縄文時代の年代を知る上で貴重な資料を得た。なお，この遺構確認面より下は未調査であるため，当該地の旧石器時代の様相は不明である。



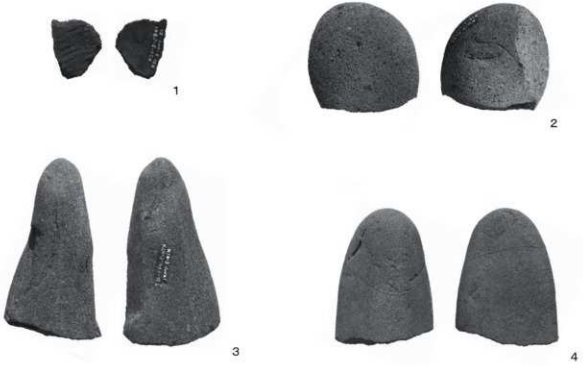
第 108 図　出土遺物実測図（１／３）

第 13 表　K 20 － 3 遺物観察表（土器）

図面 図版	遺物 番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成形・整形 の特徴	残存量	焼成 色調 胎土	備考
第 108 図 1 第 109 図 1	JB01	深鉢	Ⅲ b 層	— （4.1） —	欠損部が多く，全容不明。	撚糸文を施す。内面調整は行われていない。	胴部	焼成不良。赤褐色。胎土は砂粒を多く含む。	

第 14 表　K 20 － 3 遺物観察表（石器）

図面 図版	遺物 番号	種別 細分類	出土 位置	最大長 （cm）	最大幅 （cm）	最大厚 （cm）	重量 （g）	残存量 残存 状態	石材	備考
第 108 図 2 第 109 図 2	AL01	磨石	Ⅲ b 層	（8.9）	8.8	4.2	465.0	3 ／ 4	花崗岩	被熱による割れとひび割れで一部欠損。磨面は顕著ではない。
第 108 図 3 第 109 図 3	AN01	スタンプ形石器 Ⅱ	Ⅲ b 層	14.7	7.6	5.8	800.0	完形	砂岩	磨面はあまり顕著ではなく，右側面に磨面を持つ。
第 108 図 4 第 109 図 4	AN02	スタンプ形石器 Ⅲ － 1	Ⅲ b 層	11.2	8.0	5.0	570.3	下部欠損	砂岩	断面三角形。磨面部が欠損している。



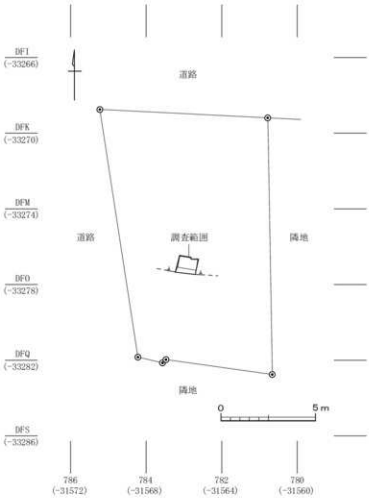
第 109 図　出土遺物写真

（７）殿ヶ谷戸遺跡第 13 次

所在地	国分寺市南町二丁目 284 － 66		
調査原因	集合住宅建設		
調査期間	平成 23 年４月 25 日～４月 26 日		
調査面積	0.90 ㎡	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
調査員	小野本		

第 110 図　Ｋ 21 － 13 調査地位置図

調査地は，殿ヶ谷戸遺跡（№ 21）に該当する。殿ヶ谷戸遺跡は北東へ延びる殿ヶ谷戸谷と北西へ延びる本多谷に挟まれ，南縁には野川が通る独立丘陵に立地する。遺跡範囲はその丘陵全体にわたり，その地形から以前は丸山（円山）と呼ばれていた。現在の南町二丁目一帯に相当し，調査地は遺跡北端で北側へ降る斜面地に位置する（第 110 図）。



第 111 図　Ｋ 21 － 13 調査地全体図（１／200）

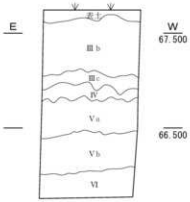
殿ヶ谷戸遺跡はその発見が 50 年以上前にさかのぼり，これまでに様々な調査が行われている。遺跡の西部にあたる第 12 次調査地点の南約 20 ｍの地点（南町２－４－８付近）では，昭和 26 年に本遺跡を貫く東西道路の切り通しによって露出したローム層中から剥片や石核が確認されている。また，この東西道路沿いでは，公共下水などに伴う調査では遺構が確認されなかったが，縄文時代の早期から後期にかけての土器が昭和 30 年頃に東西道路の広い範囲で採集されたことによって，台地全面を遺跡の範囲とした経緯がある。

調査としてはこれまでに 12 次行われ，この５年ほどで急激に調査事例が増えた遺跡である。本調査地点から半径約 100 ｍ内に位置する第２・４～９・

10・12次調査では，加曽利E２式期の竪穴建物や埋甕，土坑などが確認されている。

以上の状況から，調査地は旧石器・縄文時代の遺構や遺物が遺存する可能性があったため，建物基礎によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として，その一部の確認調査を行った。調査地は，ほぼ中央から北側を削平してひな壇状に造成され，断面にはすでに地山が露出している状態であったため，この部分を精査して土層の確認を行った（第112図）。その結果，当該地が北に向かって急激に傾斜し，遺構が存在する可能性が低いことが確認できた。また，遺物は出土しなかった。

第112図　調査区南壁断面（北から）



第113図　調査区南壁断面図（1／40）

第114図　調査地から近景を臨む（南から）

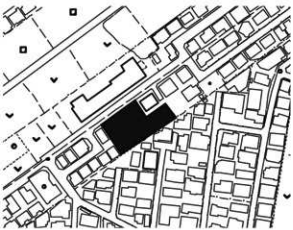
第115図　調査区近景（北から）

第３節　試掘調査

（１）東恋ヶ窪６－23－２地点

（推定東山道武蔵路跡）

所在地	国分寺市東恋ヶ窪６－23－２		
調査原因	宅地造成・試掘		
調査期間	平成23年10月11日～10月19日		
調査面積	40.35㎡	遺物箱数	なし
検出遺構	SD５		
調査員	小野本		



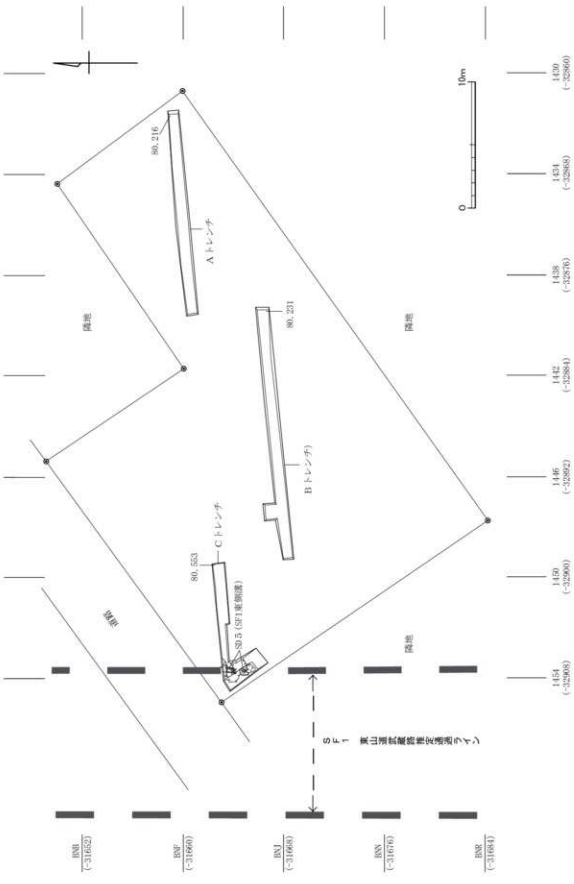
第116図　東恋ヶ窪６－23－２地点調査地位置図

調査地は，周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外であるが，東山道武蔵路（№58遺跡）の北側延長線上にあたる。

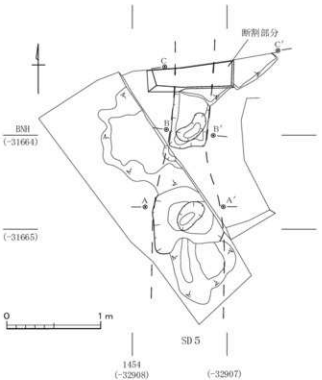
調査地は東山道武蔵路推定通過ラインに近いことから，事業者より開発に伴う埋蔵文化財取扱いの照会があった。これを受けて，市教委は平成23年９月16日付 国教教ふ発第61号をもって，開発事業者に対し，宅地造成工事計画と埋蔵文化財保護との調整について担当課であるふるさと文化財課と協議するよう依頼を行った。同９月20日には，国分寺市まちづくり条例に基づき，事業者より東恋ヶ窪六丁目23番２開発計画に関する各課事前協議書が提出された。これを受けて，同９月29日に市教委は事業者と協議を行った。その協議事項については，平成23年10月３日付 国教教ふ収第465号をもって，次のとおり回答している。まず，遺跡の有無を確認する試掘調査については，市教委作成の試掘調査計画書に基づき，工事に先立って試掘調査を実施する。次に，遺跡が存在した場合は，文化財保護法に基づき，東京都教育委員会に届け出（法第96条），埋蔵文化財の保護に必要な指示を受けること。遺跡が存在しなかった場合は，調査終了後に事業を着手するというものである。

そこで市教委は，平成23年10月７日に市遺跡調査会に指示を行い，試掘調査を行った。調査区は，東山道武蔵路の推定通過ラインに直行するようにトレンチを３本東西に長く設定した。現在の地表面から約70c m下まで掘削したところ，近代以降の耕作によってⅣ層上面まで撹乱されていた（第122～124図）が，Ｃトレンチの西端において，黒色土を覆土にもつ遺構を確認したことから，調査区を一部拡張した。その結果，南北に延びる溝跡（SD５）を検出した（第120図）ことから，その形状や堆積状況を確認するために断割を行った（図119・126～128）。SD５は全長2.0ｍ，幅0.75ｍ，深さ31㎝を測る。覆土はⅡ層やローム層主体土で，古代の遺構覆土と類似しており，土坑を連結しているような掘方形状が確認された。これらの検出位置や堆積状況から東山道武蔵路の側溝である可能性が高かったため，SD５から道路幅である12ｍ東側に相当するＢトレンチ内を部分的に拡張し精査したが遺構は確認できなかった。したがって，SD５は東山道武蔵路の東側溝で，敷地外に西側溝が存在するものと判断した。

以上のように，これまでに確定していた恋ヶ窪遺跡（西恋ヶ窪一丁目）以北における東山道武蔵路の通過ラインを復元する上で重要な成果が得られた。しかしながら，東側側溝のみの検出であること，道路本体部分が未確認であること，遺物が出土しなかったことから確定できず，周知の埋蔵文化財包蔵地に指定するまでには至らなかった。

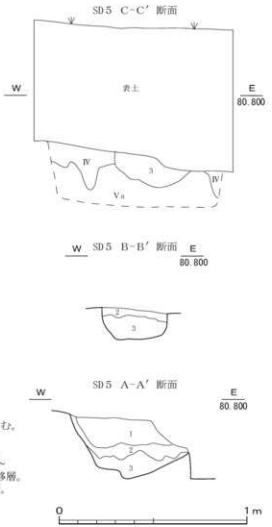


第 117 図　東恋ヶ窪６－23－２地点調査地全体図（１／300）



1　黒褐色10YR2/2　極細かいローム粒を少量含む。しまり、粘性弱い。
2　黒褐色10YR2/2　～φ2cmのロームブロック、ローム粒を多く含む。(30～40%程度含む) 1と3の漸移層。
3　褐色10YR4/6　ソフトロームの埋め戻し層。黒色土をわずかに含む。しまり弱い。粘性あり。

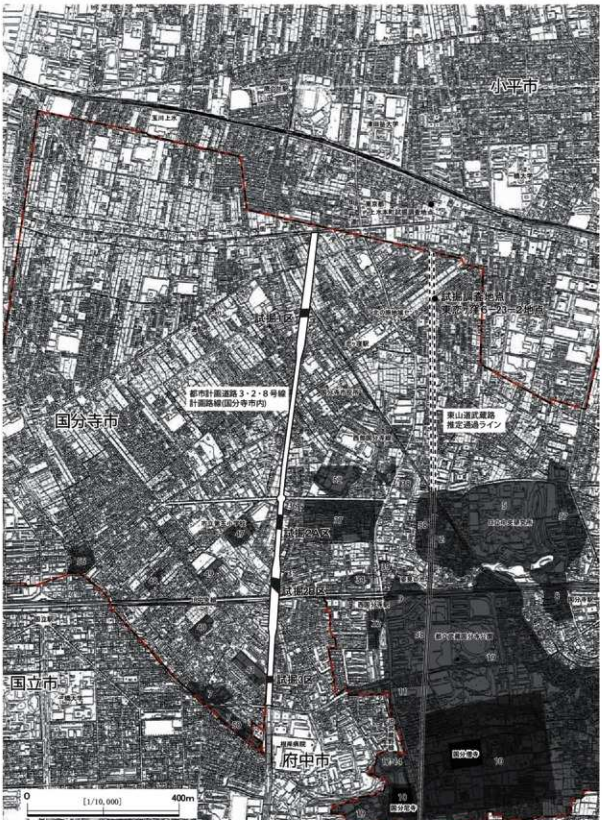
第 118 図　Ｃトレンチ西部平面図（１／40）



第 119 図　SD５北壁断面図（１／20）

第 120 図　SD５検出状況（南から）

第 121 図　SD５完掘状況（南から）



第 122 図　試掘調査地点位置図と都市計画道路３・２・８号線の計画路線調査地点位置図（１／10,000）

第 123 図　Ａトレンチ全景（西から）

第 124 図　Ｂトレンチ全景（西から）

第 125 図　Ｃトレンチ全景（東から）

第 126 図　調査前状況（西から）

第 127 図　SD５　Ａ断面北壁（南から）

第 128 図　SD５　Ｂ断面北壁（南から）

第 129 図　SD５　Ｃ断面北壁（南から）

第３章　まとめ

以上，平成 23 年度中に実施した，各種の開発に伴う緊急発掘調査の成果について報告してきた。ここでは，これらの成果を今一度俯瞰するなかで，今後，市内所在遺跡の発掘調査にかかる幾つかの課題を整理しておきたい。

まず，個人宅造に伴う本発掘調査は５地点で実施した。このうち武蔵国分寺跡関連では，僧寺寺院地区画溝の外側南方にあたる第 673 次調査と，尼寺伽藍地内に位置する第 675 次調査の２地点で調査を行った。第 673 次調査では土坑３基と小穴４基を検出し，約 25 ㎡程の小規模な調査のため不明な点は多いものの，規模の類似する小穴２基を柵列の可能性と指摘した。ここでの調査で注目されるのは，土坑 SK3432 の覆土中から出土した遺物に，白磁椀１点が含まれていることである（第 16 図１・第 17 図１）。小さな玉縁口縁を呈し，乳白色で均一な釉調は，太宰府出土の貿易陶磁器分類に照らせば白磁椀Ⅰ類に比定されるもので，約 700 次近くに及ぶこれまでの武蔵国分寺跡関連の発掘調査でも，古代の舶載磁器は越州窯青磁椀２点と同じ白磁椀１点の３点しか出土していないことから，貴重な追加事例となるものであった。なお，共伴する灰釉陶器は，肉厚な角高台をもつ黒笹 14 号窯式の段皿で，他に図示した遺物は南比企窯跡群産の男瓦片しかないが，いずれも９世紀中頃の廃棄年代を想定しておきたい。

今一つの第 675 次調査では，尼寺中門基壇を構成する SB142 とその外側を東西に走行する溝 SD44 を検出したことが特筆される。SB142 は，その検出位置から基壇の南東隅部分に相当するもので，地上の基壇部分と掘り込み地業の大半は，後世の攪乱・削平によって消失しており，基底部付近の掘り込み地業とそれに伴う４枚の版築層がかろうじて遺存している状況であった。しかし，既往の発掘調査結果と合わせると，中門基壇の掘り込み地業部は東西約 12.5 m，南北約 9.7 m の規模であったことが判明するに至り，遺存状況こそ悪いとはいえ貴重な成果であることに違いはない。一方，溝 SD44 は，既往の発掘調査区が分断されている状況のため，全体の様相は必ずしも明確ではないが，今回の調査で中門基壇の南側でも溝が途切れずに走行していることが予測された。よって，中門南側の SD44 の上には，橋が構架されていた可能性も考えられるが，SD44 が伽藍中軸線と交錯する部分は，今回の調査区（Ａトレンチ）と敷地北側の市道間に挟まれた未発掘範囲であるため，今後の追究課題といえよう。なお，同溝の覆土上層からは，９世紀後半以降の土師器甕や再建期の女瓦が出土し，尼寺中枢部区画溝の埋没年代を考える上で貴重な指標を得た。

ところで，この市道を挟んだ北側は，平成５年度に尼寺地区史跡環境整備事業に伴う発掘調査が行われ，これらの遺構の延長部分を確認しており，発掘成果に基づいた復原・整備を経て，平成 15 年度に国分寺市立歴史公園武蔵国分尼寺として開園している。今回の調査地点は，現在，史跡の指定地外に位置しているが，市教育委員会では，平成 24 年４月に策定した『国指定史跡武蔵国分寺跡　附東山道武蔵路跡　保存管理計画（第２次）』において，史跡の追加指定は，尼寺跡は「伽藍地（寺域）全体の指定を目指す」こと，さらに，埋蔵文化財包蔵地の取扱いとして，「往時の武蔵国分寺の構成・性格を考えるうえで，学術的に極めて重要な発見があった場合には，遺跡の保存，史跡の追加指定等を検討していく」ことを標榜している。今次調査

での発見遺構は，武蔵国分尼寺の主要遺構を構成する一部であることには相違がなく，追加指定の候補になる得る発掘成果といえるもので，住宅の建設にあたっては地権者の多大なるご理解とご協力のもと，中門基壇 SB142 については当初の給排水路の設計を変更して頂き，破壊されることなく現地にて保存が叶うこととなった。

この他，恋ヶ窪遺跡では，第 89 次の調査地点において土坑１基が発見された他，遺物包含層中からは多量の出土遺物が得られた。敷地の南東側は，平成５年度に第 40 次調査として公共下水道整備工事に伴って発掘調査が行われ，勝坂Ⅲ式期の竪穴住居 SI139J が確認されていたが（国分寺市遺跡調査会 1997『恋ヶ窪遺跡発掘調査報告Ⅷ』），その後，第 44 次調査が今次調査の敷地を含んだ隣接地にも及んで実施され，どの発掘区も部分的ながら，縄文時代中期の竪穴住居が周囲一体に濃密に分布している状況を確認している（未報告）。今回の調査範囲は，ちょうどこれら竪穴分布の隙間に相当していたようで（第 44 図），住居跡そのものの検出には至らなかったが，調査区北壁の堆積土層の断面観察所見では，遺物を含むⅢｂ層が緩く窪んでいる状況を確認しており，第 44 次調査の住居 SI133J の片鱗に相当していた可能性が考えられる。出土した遺物は，殆どが遺物包含層中のものであったが，小片であっても時期比定の基準となる資料については可能な限り図示するよう努めた（第 47 ～ 49 図）。それによると，土器は縄文時代中期中葉の勝坂Ⅰ～Ⅲ式，中期後葉の加曽利Ｅ１～２式に加えて，中部高地系の曽利Ⅱ式が組成に含まれており，このうち数量的には勝坂Ⅲ式～加曽利Ｅ１式が主体であった。なお，唯一発見された遺構である土坑 SK204J は，その覆土上層から加曽利Ｅ２～３式および曽利Ⅲ式が出土しており，中期後葉に廃絶した遺構である可能性が考えられる。この他，土製円盤３点，打製石斧５点，磨製石斧１点を掲げたが，いずれも周辺での出土例の目立つ遺物組成であった。縄文時代中期の集落遺跡として知られる恋ヶ窪遺跡であるが，調査次数に照らして未報告の資料が蓄積されており，市教育委員会としても遺跡の全体的な様相，詳細な時期的動向の解明については今後の大きな課題としたい。

また，花沢東遺跡第 13 次調査では，４箇所設定した試掘坑のうち最も西端に位置するＡトレンチで，立川ローム層の第Ⅳ層下部から礫群および石器集中をそれぞれ１箇所ずつ確認し，チャート２個体，黒色頁岩１個体の母岩を持つ石器製作の痕跡を捉えることが出来た。同遺跡では，昭和 56 年度に都営住宅建設に伴う第１次調査として，本地点の北東約 100 m程隔てた，殿ヶ谷戸谷を望む台地東縁辺部に対して，約 5,600 ㎡もの広大な敷地が発掘調査されている。その時の調査では，立川ローム層第Ⅲ～Ⅹ層までの間に７つの文化層が確認され，このうち第３文化層に相当する第Ⅳ層下部からは，調査区の東側に張り出す形で南北 60 mにも及ぶ円弧状に展開する石器集中地点３箇所，礫群４基を検出している。それに比べると，調査区の制約から，今次調査地点の遺構は全体形状こそ掴めなかったが，台地の奥まった場所にも礫群や石器集中が展開することが改めて確認された意義は大きい。また，盛土を除いて旧表土から約２m足らずのレベルで旧石器時代の文化層に到達するため，今後，周辺で深い地下構造物を伴う工事においては注意を払う必要がある。さらに，今次の調査地点のⅤ層以下は，予定されていた工事の深度が及ばなかったことから，発掘調査のさらなる追究は行わなかったが，第１次調査では立川ローム層第Ⅹ層（第７文化層）からも局部磨製石斧が出土していることから，さらに古い時期の文化層が存在することも否定出来ない。合わせて，今後周辺における調査の蓄積

を重ねていくなかで検討することとしたい。

次に，確認調査であるが，平成 23 年度は武蔵国分寺跡で３地点，恋ヶ窪遺跡で１地点，花沢西遺跡で１地点，殿ヶ谷戸北遺跡で１地点，殿ヶ谷戸遺跡で１地点の，計７箇所で実施した。結果的には，遺構・遺物等が発見されて，その後の工事計画に影響が及ぶ調査内容ではないものが多かったが，このうち唯一，花沢西遺跡第 22 次調査では，縄文時代の土坑１基を検出した。ただし，当該土坑以外には遺構は確認されず，また遺物の出土も疎らであったため，確認調査の中で記録保存の措置をとった。出土遺物から本土坑の所産時期は中期中葉の勝坂式期と思われるが，周辺の包含層中からは中期前葉の阿玉台式の土器も出土している。また，殿ヶ谷戸北遺跡第３次調査では，遺物包含層中から縄文時代早期の土器・石器が出土した。いずれも，今後付近の発掘調査を行うに際して参考となる資料が得られたといえよう。

ところで，国分寺市では市内における開発手続きとして，まちづくり条例に基づく各種申請行為が定められており，ふるさと文化財課では個別の開発案件に対して，埋蔵文化財包蔵地及び国指定史跡の範囲内外の確認を行っている。その過程で，平成 23 年度は，埋蔵文化財包蔵地外ではあるが，国分寺市№58 遺跡（東山道武蔵路）の北側想定延長線上にあたる地点で，１箇所の開発申請があった。そこで，地権者および施工業者のご協力のもと，工事に先駆けて埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を行うこととした。詳細は第２章第３節で述べたとおり，敷地内の西際で東山道武蔵路の東側溝の一部と思われる，土坑を連結したような溝状の遺構１条を発見したものの，西側溝はおろか道路の路面を明確に捉えることは出来ず，今回の試掘結果をもって遺跡発見の手続きは行うまでには至らなかった。東山道武蔵路は，市内では西恋ヶ窪一丁目および東恋ヶ窪三丁目地内で，平成 19 年度に都市計画道路３・４・６号線建設に伴い実施した発掘調査を北限に（国分寺市遺跡調査会 2008『東山道武蔵路発掘調査概報Ⅰ』），それより北側の様相が未だ明確には掴めていない。今後，付近での試掘調査を重ねていくなかで，包蔵地の確定作業を進めていく必要がある。

この他，本書には収載していないが，当該年度には国分寺市内を縦貫する都市計画道路３・２・８号線建設に伴う第一期試掘調査，さらに計画路線上にあたる国分寺市№36 遺跡地内では東京都埋蔵文化財センターが本発掘調査を実施している（試掘調査地点は第 122 図を参照）。いずれの箇所も，これまで市内では遺跡の発掘調査があまり及んでいない場所において調査を行う機会を得たが，遺構・遺物の検出状況は総じて少ないものであった。とはいえ，縄文時代の遺跡として周知されている№36 遺跡で，遺構には伴はないが，かわらけや鍋島焼等の肥前磁器が出土しており，近世の国分寺市域における考古学的情報が少ない状況下にあって，貴重な調査成果が得られたといえる。経緯・調査内容等の詳細は，東京都埋蔵文化財センターの刊行物にて別途報告される予定であるが，事業者の用地取得の関係から，引き続き第二期以降の試掘調査も平成 24 年度に行うこととなっていおり，今後の調査動向が注目される。

最後になりましたが，本書に収載した個々の緊急発掘調査にあたっては，地権者の皆様ならびに施工業者様のご理解とご協力なくしては到底実施し得なかったものです。調査に関係されました皆様方には，改めて感謝の意を表します。

報告書抄録

ふりがな	へいせい23ねんどこくぶんじしまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう
書名	平成23年度国分寺市埋蔵文化財調査年報
編著者名	寺前めぐみ（編）・依田亮一・上敷領　久・中道　誠
編集・発行機関	国分寺市教育委員会
所在地	〒185-0023 東京都国分寺西元町1-13-10　武蔵国分寺跡資料館内　TEL 042-300-0073
発行年月日	平成25（2013）年3月31日
規格／部数	A4判横組1段　42文字×38行　92頁／300部
資料の保存 問い合わせ先	国分寺市教育委員会 教育部 ふるさと文化財課 〒185-0023 東京都国分寺西元町1-13-10　武蔵国分寺跡資料館内 TEL：042-300-0073　FAX：042-300-0091　E-mail：bunkazai@city.kokubunji.tokyo.jp

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		㎡	
武蔵国分寺跡（第670次）	東京都国分寺市泉町	13-214	19	35°41′49″	139°28′26″	20110509	2.45	集合住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
武蔵国分寺跡	集落跡 道路跡		なし			なし	掘削底面まで盛土。	

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		㎡	
武蔵国分寺跡（第671次）	東京都国分寺市西元町	13-214	19	35°41′19″	139°28′00″	20110623～20110624	7.80	集合住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
武蔵国分寺跡	集落跡 道路跡		なし			なし	古代の土層堆積を確認。	

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		㎡	
武蔵国分寺跡（第673次）	東京都国分寺市西元町	13-214	19	35°41′20″	139°28′16″	20111202～20111208	25.15	個人宅造
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
武蔵国分寺跡	集落跡 道路跡		土坑3基 （SK3430～3432） 小穴4基（P-1～P-4）			土器 瓦 白磁	SK3431覆土中から土器・瓦が出土。市内では類例の少ない白磁が注目される。	

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		㎡	
武蔵国分寺跡（第674次）	東京都国分寺市西元町	13-214	19	35°41′21″	139°28′27″	20120130	2.81	分譲住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
武蔵国分寺跡	集落跡 道路跡		なし			なし	掘削底面で縄文時代の遺物包含層を確認。	

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		㎡	
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 （第 675 次）	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしもとまち 西元町	13-214	10 19	35° 41′ 21″	139° 28′ 05″	20120306 ～ 20120323	41.51	個人宅造
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 （僧尼寺）	寺院跡		礎石建物（SB142） 溝（SD44）			須恵器 土師器 瓦	武蔵国分尼寺中門（SB142），南辺区画溝（SD44）を確認。中門は現地保存を行った。	

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		㎡	
こいがくぼ 恋ヶ窪遺跡 （第 88 次）	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしこいがくぼ 西恋ヶ窪	13-214	2	35° 42′ 12″	139° 28′ 09″	20110512 ～ 20110513	7.40	個人宅造
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
こいがくぼ 恋ヶ窪遺跡	集落跡		なし			なし	掘削底面で縄文時代の遺物包含層を確認。	

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		㎡	
こいがくぼ 恋ヶ窪遺跡 （第 89 次）	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしこいがくぼ 西恋ヶ窪	13-214	2	35° 42′ 10″	139° 28′ 11″	20110824 ～ 20110905	7.96	個人宅造
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
こいがくぼ 恋ヶ窪遺跡	集落跡	縄文時代 中期後半	土坑（SK204J）			縄文土器 石器	縄文時代中期後半の土坑（SK204J）を確認。包含層からは遺物が多く出土した。	

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		㎡	
こいがくぼ 恋ヶ窪遺跡 （第 90 次）	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしこいがくぼ 西恋ヶ窪	13-214	2	35° 42′ 04″	139° 28′ 18″	20110905 ～ 20110906	3.77	分譲住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
こいがくぼ 恋ヶ窪遺跡	集落跡		なし			なし	掘削底面まで盛土。	

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		㎡	
はなざわにし 花沢西遺跡 （第 22 次）	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 みなみちょう 南町	13-214	8	35° 42′ 00″	139° 28′ 38″	20120201 ～ 20120209	12.60	集合住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
はなざわにし 花沢西遺跡	集落跡	縄文時代	土坑（SK29J）			縄文土器	土坑（SK29J）を確認した。倒木等による自然のくぼみの可能性もある。	

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		㎡	
まの がやとき 殿ヶ谷戸北遺跡 （第 3 次）	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 みなみちょう 南町	13-214	20	35° 41′ 58″	139° 29′ 14″	20120213 ～ 20120220	19.84	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
まの がやとき 殿ヶ谷戸北遺跡	集落	縄文時代	なし			縄文土器 石器	少量の縄文土器と石器が出土した。	

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		㎡	
殿ヶ谷戸遺跡（第 13 次）	東京都国分寺市南町	13-214	21	35° 41′ 58″	139° 29′ 04″	20110425 ～ 20110426	0.90	集合住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
殿ヶ谷戸遺跡	集落跡		なし			なし	北に急激に傾斜し，遺構が存在する可能性が低い。	
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		㎡	
花沢東遺跡（第 13 次）	東京都国分寺市南町	13-214	54	35° 41′ 50″	139° 28′ 48″	20120206 ～ 20120306	64.08	個人宅造
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
花沢東遺跡	集落跡	縄文時代 旧石器時代	ピット３基（PJ-1 ～ 3） 石器群（ST19） 礫群（SR25）			石器 礫	ハードローム中から石器群が，その直下から礫群が検出された。石器群は主にチャート剥片であり，石器製作跡と考えられる。	
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		㎡	
	東京都国分寺市東恋ヶ窪	13-214		35° 42′ 51″	139° 28′ 11″	20111011 ～ 20111019	40.35	宅地造成 試掘
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
	道路跡	古代	溝（SD5）			なし	東山道武蔵路東側溝の可能性のある SD 5 を確認した。	

平成 23 年度　国分寺市埋蔵文化財調査年報

発　行　日　平成 25 年（2013）3 月 31 日
編　著　者　国分寺市教育委員会・国分寺市遺跡調査会
発　行　者　国分寺市教育委員会 教育部 ふるさと文化財課
〒 185 － 0023　東京都国分寺市西元町 1 － 13 － 10
武蔵国分寺跡資料館内
TEL 042 － 300 － 0073
印刷会社　株式会社　プリントショップ国分寺
〒 185 － 0021　東京都国分寺市南町 2 － 10 － 8
TEL 042 － 327 － 4311

紙質
表紙：アートポスト　菊判　125 kg　　本文：マットコート　A判　44.5 kg
表紙写真：花沢東遺跡第 13 次調査出土　旧石器（約 3 ／ 4）

令和 4 年（2022）3 月 2 日　デジタル版作成